

2025年度
日本女子大学
社会連携教育センター
活動報告書



2025年度社会連携教育センター活動報告書 目次

○2025年度 社会連携教育センター動向

社会連携教育センター 所長 文学部史学科教授 藤井 雅子 1

○2025年度の社会連携教育委員会を振り返って

社会連携教育委員会 委員長 食科学部食科学科准教授 北澤 裕明 3

○正課外学修の推進

▼正課外学修・イベントについて 4

▽正課外学修・イベント一覧 5

▽正課外学修・イベントアンケート 7

▼2025年度社会連携活動支援助成について

自主活動推進プロジェクトチーム 文学部史学科教授 藤井 雅子 25

▽社会連携活動支援助成スケジュールおよび採択テーマ一覧 26

▽社会連携活動支援助成 活動報告

アイヌ文化、歴史、伝統及び技術の理解を深める

申請No.01 (3名) 代表：理学部数物情報科学科3年 27

北海道平取町の保育施設における地域資源を題材とした運動支援活動

申請No.02 (10名) 代表：家政学部児童学科3年 28

子どもが四季を感じる経験を通じて、地域の異世代交流を促進し、
地域全体のつながりを深める

申請No.03 (7名) 代表：家政学部児童学科2年 29

那須高原leu.にてワークショップ開催ならびに地域創生活動

申請No.05 (2名) 代表：建築デザイン学部建築デザイン学科1年 30

唐丹町で伝統文化「釜石さくら祭り 鉄砲隊」の子供たちへの継承の実践

申請No.07 (7名) 代表：家政学部住居学科4年 33

▼学外（自治体等）主催のイベント等への学生ボランティアの参加について 35

○地域連携報告

▼心理相談室活動報告

社会連携教育センター分室心理相談室長 人間社会学部心理学科准教授 堀江 桂吾 ... 36

▼文京区妊産婦・乳児救護所と文京避難所大学について

建築デザイン学部建築デザイン学科教授 平田 京子 37

▼2025年度文京区健康・体力増進事業について

家政学部児童学科教授 杉山 哲司 准教授 澤田 美砂子 39

▽文京区連携活動報告 40

▼川崎市多摩区・大学連携事業について「人生100年時代におけるあなたの未来を考えよう！

市民のためのキャリアデザインセミナー」

人間社会学部社会福祉学科教授 黒岩 亮子 42

▽川崎市多摩区連携活動報告 43

▼板橋区立中央図書館との連携事業「親子読み聞かせ講座」	
家政学部児童学科准教授 今田 由香	45
▼板橋区立中央図書館との連携事業「歌って遊ぼう わらべ歌！」「図書館サポーター講座」	
家政学部児童学科教授 根津 知佳子	46
▼板橋区教育委員会との連携事業 ―「中台延命寺所蔵大般若経 附旧経櫃・経箱」有形文化財登録および「大般若経会」について―	
文学部史学科教授 藤井 雅子	47
▼北海道新冠町『レ・コードのまち新冠町』の認知向上に向けた	
レ・コード館の有効活用について	
人間社会学部現代社会学科准教授 上田 誠二	48
▼北海道浦河町産夏いちごのブランド力強化に向けた流通環境改善の提案について	
食科学部食科学科准教授 北澤 裕明	49
▼北海道日高管内（平取町）における子どもの運動環境に関する調査について	
家政学部児童学科准教授 澤田 美砂子	50
▽北海道日高管内7町・日高振興局・日高町村会連携活動報告	51
▼梶原町における脱キャンパス型実習科目「実践プログラム」	
演劇ワークショップについて	
国際文化学部国際文化学科教授 木村 覚	52
▽高知県高岡郡梶原町連携活動報告	53
▼盛岡市連携事業「文京区学生と創るアグリイノベーション事業」について	
食科学部食科学科教授 藤井 恵子	54
▽岩手県盛岡市連携活動報告	55
○産官学連携報告	
▼2025年度 AI・データサイエンス、ICTに関する社会連携活動	
理学部数物情報科学科教授 長谷川 治久	56
▼日本総合住生活株式会社との産学連携について	
建築デザイン学部建築デザイン学科教授 片山 伸也	57
▼株式会社クボタ筑波工場における健康な食事の提案と学術活動について	
食科学部栄養学科教授 松月 弘恵	58
○JWU子育てサイエンス・ラボ／子育てサイエンス・カフェ	
▼JWU子育てサイエンス・ラボ活動報告	
人間社会学部心理学科教授 麦谷 綾子	59
▽子育てサイエンス・カフェ アンケート	61
○SDGs特設サイト	
▼2025年度 SDGs特設サイトについて	78

※所属・役職については 2025 年度時点のものとなります。

※ 2024 年度より、家政学部住居学科は建築デザイン学部建築デザイン学科に改組しました。

※ 2025 年度より、家政学部食物学科は食科学部食科学科・栄養学科に改組しました。

※ 2026 年度より、文学部史学科は文学部歴史文化学科に名称変更しました。

※ 2026 年度より、文学部日本文学科は文学部日本語日本文学科に名称変更しました。

2025年度 社会連携教育センター動向

社会連携教育センター所長 藤 井 雅 子
(文学部史学科 教授)

社会連携教育センターは、本学における社会連携活動を支援し推進する役割を担うために、2020年4月に発足した組織である。本稿では、2025年度における社会連携教育センターの活動およびプログラム内容、2026年度の予定や展望について述べていきたい。

1 2025年度の活動およびプログラム内容

2025年度も社会連携教育センターでは、社会連携・支援事業として、自治体、産学教育連携、正課外学修事業、学内イベント等の様々な取り組みを行ってきたため、これらのうち特記すべき活動について報告することにした。

(1) 自治体・産学との連携に基づく事業

今年度も文京区、板橋区教育委員会、神奈川県川崎市、北海道日高管内7町、高知県梼原町、岩手県盛岡市と連携協定を結び、社会連携事業を数多く行った。文京区においては、2026年3月10日に拓殖大学において、「文京区の大学に通う学生による地域活動報告会」が行われ、本学の2グループが社会連携活動について報告を行った。板橋区とは、2023年2月より、板橋区立中央図書館、イタリアのボローニャ市立サラボルサ児童図書館および日本女子大学社会連携教育センターによる連携事業「わらべ歌収集プロジェクト」を開催してきたが、2025年11月に開催された第7回ワークショップをもって、その活動を終えることとなった。川崎市については、2025年11月8日に川崎市多摩市民館ホールにおいて「多摩区・3大学連携協議会 2025多摩区3大学コンサート～水と緑と学びのまち～」が行われ、本学の箏曲研究会が演奏を披露した。北海道日高管内7町とは、地域連携推進事業として各町から提示された課題解決のために本学教員や学生による様々な取り組みが試みられており、例えば、現代社会学科の上田誠二准教授の指導の下、新冠町の「レ・コード館」の利活用や情報発信の在り方が検討されている。盛岡市とは、食科学科の藤井恵子教授の研究室において、2024年度より「文京区学生と創るアグリイノベーション事業」として盛岡市特産品の「雁喰豆（がんくいまめ）」の新たな商品・加工技術の開発を行っており、2026年2月18日の盛岡市内における報告会において研究成果が発表された。

「JWU子育てサイエンス・ラボ」では、2025年度もメールマガジンやニューズレターの発行や、子育てサイエンス・カフェを対面およびオンライン形式で実施した（詳細は、「JWU子育てサイエンス・ラボ活動報告」参照）。

その他企業としては、日本総合住生活株式会社・株式会社読売広告社・株式会社クボタとの連携活動を行った。

(2) SDGs推進事業

本年度も本学教員による「日本女子大学×SDGs」として、教員による9本とともに、図書館による1本を加えて計10本のSDGsへの取り組みをまとめ、公開した。

(3) 正課外学修支援事業

学生による正課外学修支援事業として21年度に立ち上げた「社会連携活動助成事業」は5年目を迎え、新入生によるチャレンジ枠1チームのほか、2年次以上の4チームの計5チームが夏季休暇等を利用して、社会・地域連携や貢献活動を行った（詳細は「2026年度社会連携活動支援助成について」参照）。

その他、百二十年館のJWUラーニング・コモンズかえでにおいて、「はじめてのノートテイク養成講座」「知っているようで知らないNPOについてーグリーンウッドの方に聞いてみよう！ー」「JAL社員と考えるSDGs～地域活性化～」 「点で打つ文字の世界を体験しよう」「あつまれ!!さんた村～一緒につくるクリスマス～」などのボランティアイベントや交流事業を実施し、学生や近隣地域の子ども達が参加し、交流を行った。

(4) その他

本年度も前年度に引き続き、本学における地域や社会連携・貢献活動等が評価され、私立大学等改革総合支援事業タイプ3「地域社会の発展への貢献（地域連携型）」に選定された。

2 2026年度の予定と展望

社会連携教育センターは2026年度で5年目を迎えるが、これまでの本学学生や教員の動向からも、ボランティアや社会貢献に対する意識や関心は非常に高いと感じている。それらをより推進するために、今後も新たな取り組みを積極的に行っていききたい。

連携協定地域における課題解決に向けて、より一層、関係性の強化を図り、話し合いを行っていく予定である。

その他にもさらなる社会連携や貢献のための事業を検討したいと考えているため、引き続き、皆様方のご支援ご協力をお願い申し上げます。

2025年度の社会連携教育委員会を振り返って

社会連携教育委員会 委員長 北 澤 裕 明
(食科学部食科学科 准教授)

この度、麦谷綾子先生（心理学科）の後任として委員長に就任した。ちょうど自身が所属する学部・学科が家政学部食物学科から変わったタイミングだったこともあり、一抹の不安を抱えたままの就任となったが、自身に課された業務内容の理解に努め、また自身の立場を弁えた上で、出来る限りの貢献を果たしてまいり所存である。

JWU社会連携科目および社会連携教育認定プログラムを所管している当委員会の2025年度の大きな動きとしては、まず学生たちがボランティア活動として主体的に社会連携・社会貢献活動に取り組む実践的な実習科目である「社会連携・社会貢献活動Ⅰ・Ⅱ」に代わる科目として、コンセプトはそのまま35時間の履修で1単位が付与される「社会連携・社会貢献活動」を新設したことが挙げられる。これにより、履修登録から単位認定までが単年度で完結できることとなり、さらに反復履修も可能となった。前年度までと比較し、学生たちにとっては履修へのハードルが少し下がったともいえるが、一方で、活動開始に際した事前指導をこれまでの1回から2回に増やし、学生たちの科目および学外活動に対する理解および意識向上の徹底を図る体制を整えた。

また、2025年度の新たな取り組みとして、学生たちの活動を受入れていただいている団体の方々に「社会連携・社会貢献活動」の概要を説明し理解を深めていただくとともに、この科目および活動をする学生たちにどういったことを要望されているのかを把握するための面談の機会を設けた。さらに、委員会での検討を踏まえ、2026年度からは学生たちの活動先を大学からの紹介団体のみとすることとした。これらの対応により、学生たちの学外活動への取り組みのさらなる円滑化および、万一のトラブル対応の迅速化が期待できる。

振り返ってみれば、時に手探りのような心境で業務にあたっていた場面もあったように記憶しているが、当委員会の先生方、社会連携教育センター所長、社会連携室の皆様の多大なるお力添えを賜り、就任1年目を乗り切ることができた。引き続き、委員長の立場で学生たちの成長を見守っていきたい。皆様の変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げる。

正課外学修の推進

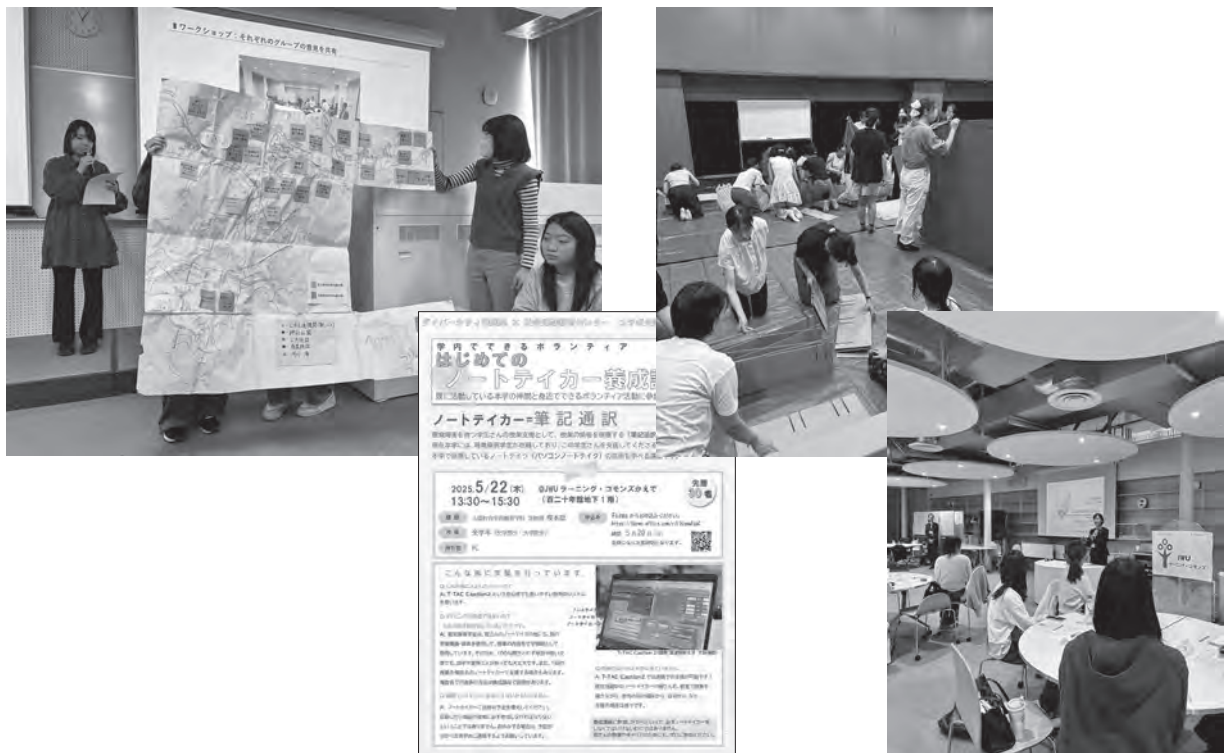
正課外学修・イベントについて

学生の社会貢献活動への意識醸成、理解促進を目指した正課外学修として、「社会連携活動支援助成」制度の運用、「JWUチームキャンパスボランティア」の運営サポート、および学外講師による学生向け講座の開催を実施している。

5年目を迎える「社会連携活動支援助成」は、過去の運用をふまえ、より学生が活用しやすい制度となるよう改善を加えながら運用した。今年度は5組が採択され、地域や活動内容など多岐にわたる活動が行われた。また、そのうち1組は、初のチャレンジ枠（学部生1年生のみのグループが対象）としての採択となった。年度末に行った活動報告会では、活動においてお世話になった方々にも多くご参加いただき各グループの成果発表を聴講いただくことができた。来年度に向けて、今年度の活動を見直し、より充実した制度となるようさらなる運用ルールの改善を検討していく。

学内ボランティアの活動については、「ノートテイカーボランティア」チームおよび「妊産婦・乳児救護所ボランティア」チームにおいて活動を実施した。ダイバーシティ推進室と連携し「ノートテイカー養成講座」を年2回開催し、聴覚障害学生の支援を行うノートテイカーの新規獲得、および、学生のダイバーシティに対する意識の醸成に貢献している。また、「妊産婦・乳児救護所ボランティア」チームにおいては、「妊産婦・乳児救護所」に関するイベントを開催し、実際に避難所となる新泉山館にて備蓄物資や備品に触れるなど、「妊産婦・乳児救護所」の理解促進に努めている。

また、上記活動を含む社会貢献活動への意識向上を目的に、学外講師を招いた講座を実施している。



正課外学修・イベント一覧

(※すべてのイベントを対面で開催いたしました。)

●2025年4月7日開催【在学生・学内関係者対象】

JWUチーム キャンパスボランティア活動説明会

「文京区の赤ちゃん子どもを守る防災ボランティア」

講 師：建築デザイン学部建築デザイン学科 教授 平田京子

参加人数：28名

●2025年5月22日開催【在学生・学内関係者対象】

＜ダイバーシティ推進室×社会連携教育センター共同開催＞はじめてのノートテイク養成講座

講 師：人間社会学部教育学科 准教授 榎本聡

参加人数：23名

●2025年6月5日開催【在学生・学内関係者対象】

知っているようで知らないNPOについて－グリーンウッドの方に聞いてみよう－

講 師：NPO法人グリーンウッド自然体験教育センター

参加人数：4名

●2025年7月31日開催【在学生・学内関係者対象】

防災備蓄物資を実際に使用して災害に備えよう！

講 師：建築デザイン学部建築デザイン学科 教授 平田京子

参加人数：23名

●2025年10月2日開催【在学生・学内関係者対象】

＜ダイバーシティ推進室×社会連携教育センター共同開催＞はじめてのノートテイク養成講座

講 師：人間社会学部教育学科 准教授 榎本聡

参加人数：19名

●2025年10月23日開催【在学生・学内関係者対象】

＜日本文学科×社会連携教育センター共同開催＞

日本語を母語としない児童・生徒への日本語指導の現状から社会貢献活動を考えよう

講 師：東京都教育支援機構（TEPRO）

参加人数：10名

●2025年11月20日開催【在学生・学内関係者対象】

＜株式会社JAL航空みらいラボ×社会連携教育センター共同開催＞

JAL社員と考えるSDGs～地域活性化～

講 師：株式会社JAL航空みらいラボ

参加人数：26名

●2025年12月6日開催

＜社会福祉学科×社会連携教育センター共同開催＞

あつまれ！！さんた村～一緒につくるクリスマス～（クリスマスイベント）

講 師：人間社会学部社会福祉学科 教授 黒岩亮子

参加人数：34名（一般参加者） 10名（黒岩ゼミ生）11名（ボランティア学生）

●2025年12月11日開催【在学生・学内関係者対象】

＜文京区社会福祉協議会×社会連携教育センター共同開催＞

点で打つ文字の世界を体験しよう

講 師：文京区社会福祉協議会／点訳・触図制作「サークル・六点会」

参加人数：8名

正課外学修・イベントアンケート

イベント名：はじめてのノートテイクー養成講座

日時：2025年5月22日（木）13：30～15：30

場所：対面開催（JWUラーニング・コモンズかえで）

参加人数：23名

アンケート：20件（回収率：87 %）

< Q 1 > 本日のイベントにどのくらい満足していますか？

満足	18
やや満足	2
やや不満	0
不満	0

< Q 2 > 今回のイベントにご意見・ご要望・ご感想がございましたらご自由にお書きください。（任意）

- ・タイピングの練習をしようと思った
- ・何人かで一緒にやれることを知って少し安心しました。もちろん、お互いにどこまで入力するのかを予想し合う難しさはありましたが、文章を分担して記入できるという点は、安心しました。
- ・タイピングの技術に不安を感じながら参加したが、やってるうちにできるようになる、ということを知り、自分にもできるかもしれない、と思った。
- ・連携をとるのが、難しかったです。これから、練習していきたいと思います。
- ・タイピングに自信がなく、不安だったのですが複数人で連携すると自分の担当する部分が少なくなり、安心してタイピングすることができました。実際に支援するということは今回よりも不安ですが、参加し頑張りたいです。
- ・4. 今回「参加しない」を選択しても、後日随時参加することができます。その際はお気軽に百年館2階社会連携室窓口へお越しください。→2年次以降に参加させて頂きたいです。
- ・実際に体験できて、ノートテイクのイメージを掴めました。やってみたいという気持ちが強くなりました。
- ・話を聞きながら打ち込むのが難しかった。分担して打ち込む昨日はあったけど、うまく分担するのも難しかった。
- ・タイピングには少し自信があったのですが、実際にノートテイクを行ってみると聞き取ったことをそのまま文字にするというのはとても難しく感じました。このことは実際に参加してみないと分からなかったと思うので、今回講座を通して学ぶことができてとても良かったです。また、学生さんの声を聞いてノートテイクのボランティア活動に魅力を感じました。今すぐに活動することは難しいですが、自分自身の授業などに余裕ができたなら、活動してみたいと思いました。
- ・聴覚障害者もいらっしやっており、その方たちからお話も聞けたので良かったです。
- ・ノートテイクについてのお話や、実際のノートテイクの体験など、とても貴重な時間を過ごさせていただき、ありがとうございました。

※原文ママ

< Q 3 > 今回のイベントを何をご覧になって知りましたか？（複数回答可）

JASMINE-Navi	17
学内関係者（教員・学生）から聞いて	2
その他	1

その他：百二十年館のポスター

< Q 4 > 社会連携教育センターには聴覚障害学生支援のノートテイクボランティアチームがあります。

このチームに参加していただけますか？

参加したい	15
参加しない	5

< Q 5 > 事前視聴の動画 や 今回の講座を受講して、講師への質問がありましたら、お書きください。後日、個別に回答をいたします。(任意)

なし

< Q 6 > 社会連携教育センターでは、今後も様々なイベントを企画していく予定です。どのようなイベントがあると思いますか？ご自由にご記入ください。(任意)

・ こういう障がい者の人の話を聞けるような企画があるととてもいい経験になるなと思ってます。

イベント名：知っているようで知らないNPOについて～グリーンウッドの方に聞いてみよう～

日 時：2025年6月5日（木）13：30～15：30

場 所：対面開催（JWUラーニング・コモンズかえで）

参加人数：4名

アンケート：4件（回収率：100%）

< Q 1 > この講座を何をご覧になって知りましたか。(複数回答可)

JASMINE-Navi	3
教員から聞いて	0
学内の掲示	1
その他	0

< Q 2 > 今回の参加目的についてお知らせ下さい。

1. NPOについて知りたい	4
2. グリーンウッドの山賊キャンプに参加したい	0
3. 1.と2.両方のため	0
その他	0

< Q 3 > 講座を受講して山賊キャンプに参加してみたいと感じましたか？

はい	1
いいえ	0
わからない	3

< Q 4 > この講座を受講してあなたのNPOについての見方が変わりましたか？

はい	4
いいえ	0

< Q 5 > どのように見方が変わりましたか？具体的にお知らせください。(任意)

・ 人助けの印象が強かったが、体験することを重要視した教育の場を設けていたり、そう言った教育を通して子供

達の興味や可能性を広げているということを知った。

- ・ボランティアをする団体というイメージだったけれど、子供達の教育や体験を育てられると気づいた。
- ・非営利団体と学習していたので、どのように経営しているのかや、具体的にどんなことをしているのか等分からなかったことを知ることができました。
- ・自分が思っていたよりも教育に重点を置いていることが分かった。そして、自分で決めるということは普段の生活だとどうしても全てはできず、人任せになってしまう部分があるので、この経験はとても大きいと思った。

※原文ママ

< Q 6 > この講座に対する満足度をお知らせください。

大変満足	4
満足	0
普通	0
やや不満	0
不満	0

< Q 7 > Q 6 についてなぜそのように思いましたか？また本日の感想をお聞かせください。

- ・映像や画像などから子供たちの笑顔や、自主性を感じたから。
- ・映像を見て子供たちがやりたいようにやって、自然と楽しく触れ合ってる姿をみてきつと子供達はこの経験が将来にもいい影響があるだろうと感じたから。
- ・実際にキャンプや山村留学の様子を動画で見れて理解が深まったため。グループワーク等もあり、楽しみながら参加出来たため。
- ・具体的に活動について知ることができて良かった。普段の生活とは全く違うことで学ぶことができるのが良いことであると思った。

※原文ママ

< Q 8 > 社会連携教育センターでは、今後も様々なイベントを企画していく予定です。どのようなイベントがあると思いますか？ご自由にご記入ください。（任意）

- ・ボランティア団体を立ち上げた人の話などが聞けたらいいなと思っています！

※原文ママ

イベント名：『防災備蓄物資を実際に使用して災害に備えよう！』

日 時：2025年7月31日（木）10：00～12：00

場 所：対面開催（新泉山館大会議室）

参加人数：23名

アンケート：23件（回収率：100%）

< Q 1 > 本日のイベントにどのくらい満足していますか？

満足	21
やや満足	2
やや不満	0
不満	0

<Q2>ガイダンス（講義）で、妊産婦・乳児救護所の概要はわかりましたか？

よくわかった	20
わかった	3
あまりわからない	0
わからない	0

<Q3>本学の備蓄物資の状況についてわかりましたか？

よくわかった	18
わかった	5
あまりわからない	0
わからない	0

<Q4>防災備蓄品を使った感想をお聞かせください。

- ・組み立て方など体験できて良かった
- ・体験することで、実際に使うとなったときに役に立つと感じた。
- ・寝袋があると良いとおもった。
- ・組み立てるが複雑なものもあって今回は訓練という場だったけど災害時焦っている時などは大変だなと思いました。落ち着いて行動することも大切となってくるのでもっと災害時の備蓄品についての知識をつけた人が増えることが大切だなと感じました
- ・工夫はとてもされているが、スペースの閉塞感に気が滅入ってしまうことがあると思うので、何か心のケアができる工夫が必要だと感じた
- ・簡易ベッドを実際に使ってみて、すごく硬く身体が痛くなると思いました。そこで、一枚布を引くだけでも、快適さが大きく変わるので毛布やスポンジの備蓄の検討をしてほしいです。
- ・初めて使ってみたが想像以上に難しかった。急に震災が起こった時に、困る人が多くなると思うのでもっとみんなが対策しておくべきだと思った。
- ・カセット型自家発電機を使ってみて、思っていたよりも簡単にエンジンがかかって驚いた。これなら女性でも起動できると思った。エアマット付きのベッドに寝たときに、枕も使ってみた。本当の枕よりも頭を支えるのは難しいが、無いよりははまだあった方がいいと思った。
- ・簡易ベッドはとても寝づらかったけどクッションひとつあるだけでだいぶ違うのかなと思いました。
- ・簡易ベッドは思っていたよりも固くて首が痛かったです(⊖)また、停電してしまうと、暗く、寒いだろうなと思いました。夏場は良いですが、冬だとかなり寒いと思うので、タオルやブランケットなどの用意は必要だ感じました。
- ・思いの外作業が難しかったので、理解しやすい手順キットや案内を改めて作ることや、練習を積み重ねていくことが必要であると感じた。
- ・防災備蓄品の使い心地を知っておけば避難者が不便に感じる点を認識しやすくなり、どう支援すればよいのかわかりやすくなると思った。
- ・丈夫で機能性があると感じた。エアマットがあると寝心地が段違いだったため、必要性を感じた。
- ・揺れもあるため、特に妊婦の方にはより丁寧で安全な環境が必要だと思う。分娩台として、あの段ボールベッド

は多少辛いところがあるかもしれない。段ボールではなく、教壇を動かして、それを土台に、上はもう少し良いエアーマットレスや、ニトリ等の膨らませるマットレスの使用はできないのかと考えた。

- ・簡易ベッドは寝返りがうちづらいことや、枕はないに等しい状態であることがわかりました。またパーティションなどのサイズ感を理解することができました。
- ・ダンボールベッドやパーティションなど存在は知っていたが、組み立て方や使用感は今回初めて体験し、ただ物資を用意すれば良いだけでないことを実感しました。
- ・ワンタッチパーティションは組み立ては想像していたより簡単で、片付けの方が大変だった。実際に入ると、赤ちゃんと寝るには自分の寝返りによって赤ちゃんを敷いてしまいかねない大きさだったため、赤ちゃんの周りにおける柵などがあると安心に感じた。
- ・パーティションは人数に関係なく一家族同じスペースだと聞いて、大人数の家族ではとても狭いと感じた。
- ・ワンタッチパーティションはとてもパーソナルな空間が確保されていていいと思った。その反面、閉塞感を感じた。その為、震災で精神的に不安定な状態にある妊婦さん、お母さんたち同士が繋がる掲示板のようなものもあると良いと感じた。
- ・簡易ベッドを作るのが初めてだったのですが、仕組みとしてはシンプルだったので比較的作りやすくて良かったと思いました。ただ、私のグループは4人で作ったのでスムーズでしたが、もう一つのグループが逆に人数が多かったため特に片付けで分担が難しかったのかなと感じました。1つ作るのに何人が適切な人数なのかを把握するためにもこのような会を複数回実施するのがいいのではないかと思います。
- ・発電の仕方について最初に行った。起動の仕方はわかりやすいが「ガスの匂いがする、音が大きい、長時間使えるものではないためガスボンベを交換する必要がある」といったデメリットがあることを学んだ。電気の持ち具合などについては時間管理が必要になるのではないかと考えた。ダンボールベッドは、「補助柵がないため転落の可能性はある、破裂しないか不安、枕が不安定」といったデメリットがあることを学んだ。また、慣れていない環境で眠る時に安心できるものを抱きしめられると精神的な安定につながると考えた。寝具の確保などは多くのコストがかかるが、ヨガなどによる姿勢矯正はローコストで行えるため方法の一つとして使えるのではないかと考えた。
- ・パーティションの組み立てに人数が多くいると感じました。必ずしも力の強い人だけがボランティアにそろって組み立てできるとは限らないので、組み立て練習を行って慣れる経験をし、その上で災害時にスムーズに準備に取り掛かれるのが重要だと思います。
- ・ダンボールベッドやパーティションは知識としてあったが、実際に組み立てて使用するとではイメージが変わると気づいた。特に、1人では難しいため、積極的にコミュニケーションを図ることが重要であるとわかった。

※原文ママ

< Q 5 > 避難所の運営を行うのは文京区・大学であることを理解し、学生がボランティアとして手伝う必要を感じましたか？

とても感じた	20
感じた	3
あまり感じない	0
感じない	0

< Q 6 > 避難所が開設され、自分が学内にいる場合は、ボランティアとして手伝うと思いますか？

はい	21
わからない	2
いいえ	0

<Q7>ボランティアとして協力する場合、どのような心配や不安がありますか？（例：だれが作業のリーダーなのか
わかるようにしてほしい）

- ・休憩時間など、タイムスケジュール。
- ・人手が足りるのか不安です。
- ・行動指針がわからない
- ・知識がある人に目印見つけて欲しい
- ・初めての方とのコミュニケーションに緊張してしまう
- ・ボランティア内容をわからないこと。やるべきことをみんなに伝わるようにして欲しい
- ・その場に行ったとき自分はどこへ行って、何をすればいいのかわからない。
- ・自分の役割を指定して欲しいと思った。好きに動いて、と言われると人数に偏りが出たり、過剰な人数が集まったことで暇になってしまうこともあり得ると思った。
- ・役割を分けてほしいです。
- ・どこにどのように集まれば良いのかわからないのと、たくさんの方がいると思うので、誰に頼ったら聞けば良いのか分かると良いのかなと感じました！体育館にビブスがあると思うので、重役の方などはそちらを活用して視覚的にボランティアの人が誰か分かると良いなと思いました！
- ・グループ分けや、うまく動けるのか不安。また、自分自身がどのように生活していけば良いかも少し不安です。
- ・クレームや人間関係トラブル等の、避難者によるハラスメントへの対応が大変そうだと感じる。
- ・やることの明示をしてほしい（掲示板など）荷物の置き場所（安全な場所に置いておきたい）
- ・新泉山館までどうやって安全を確保しながら移動できるかが多少不安です。また、妊婦や赤ちゃんとの安全な関わり方がわかっていないため、その点についても不安です。
- ・備蓄場所を教えてくれたりといった指示は誰からどのようにもらうのが気になりました。（ボランティア用のマニュアルなどがあれば、初参加のボランティアも動きやすく作業効率が上がるのではと思いますし、もし既に作成されているのであれば、その存在の周知も必要であると感じました。）
- ・ルールや作業でやることが明確に掲示、指示されているかどうか分からないと不安がある。
- ・作業中の貴重品の管理が不安です。ボランティアがいつどこに集合するのか、途中から参加する場合にはどこで指示を受けて作業に合流するのかを分かるような掲示や案内があるといいです。
- ・ボランティアとして活動したい人の集合場所を決めてほしいです。ボランティアとして協力したくても、どこに行けば良いのか分からず協力できないかもしれないという心配があります。
- ・具体的に役割が振り分けられていると、ボランティアの方々の個々の力を最大化できると思う。
- ・自分が次に何をすればいいのかわからなくなってしまうのではないかと不安があります。リーダーにいちいち確認を取るのも迷惑になるのではないかと感じてしまうと思います。
- ・あかりがどの程度機能するのか心配に感じた。説明書などを確実に確認できるための工夫が必要だと感じた。震度5弱以上で開設されるため、招集の声がかかるわけではないのが当日うまく集まれるか不安に思った。複数人で動けると安心すると感じた。道路の信号が機能なくなるため移動が心細いと考えた。
- ・仮に、避難所内で犯罪が起こった際にボランティアだけで判断をくだせるのか心配になりました。できれば、この妊産婦・乳児避難所ならば女性の警官の方に何人か待機してもらうことが理想だと思いました。
- ・コミュニケーションの取り方や円滑な運営のための役割分担など。

※原文ママ

<Q8>避難所に関する学内ボランティア育成について、どのようなことを事前に知っておく必要があると思いますか？
（複数回答可）

避難所の運営方法の説明	20
ボランティアの役割や作業内容	16
赤ちゃんや妊産婦のケア	9
訓練をする	15
ボランティア希望者が集まる	12
その他	0

<Q9>今回のイベントに参加したご意見・ご要望・ご感想を自由にお書きください。(任意)

- ・災害が起こってしまったからでは遅いと思ったから
- ・実際に体験できるのは貴重な機会なので、とてもためになった。
- ・災害系のボランティアに初めて参加して、大学が結構しっかり食糧備蓄ができていたと感じた。一方、寝ることに関してはベッドや布団が全員分あるわけではないので、せめてタオルや毛布などは用意できたらいいと思った。
- ・今日のようにボランティアに参加してみないと分からないことがあったり、実際の時に動けないと思うので普段から対策するのが大事だなと思った。
- ・これからも体験会として防災を身近に身につけるような機会があるとより良いと思った。
- ・初めてこのようなイベントに参加して簡易ベッドや発電?の機械を使ったりして大変さを感じました。ほんとに震災が起こった時はとても暑かったりとても寒かったりしてもっと辛いんだろうなと思いました。考えれば考えるほど課題が出てくるので優先順位をつけて解決していけたらいいなと思いました。
- ・どのような作業があるのか分からないので、経験者だとできる、誰でもできるといったレベル別に作業内容が分かっていると協力しやすいのではないかなと思いました！避難所にどのような備蓄があるのか把握しておけると、避難者も何を持っていけば良いのか検討できると思うので、対象者の方へのPRの際には、備蓄で用意があるものも伝えておけると良いかなと思いました！体験会とても楽しかったですし、自分自身とても学びになりました。できるだけたくさんの学生が参加して理解が広まり深まれば良いなと思います。ありがとうございました。
- ・去年クリプロに参加したが、担当が青蘭館で、あまり防災備蓄品に触る機会がなかったので、今回作業できてよかったです。練習や人員の必要性、また今の時期だとより暑さ対策が必要なかなと感じました。涼しくなる工夫、扇風機など。
- ・哺乳瓶が全て同じ大きさではなく違う大きさのものを用意してある理由が気になった。「避難者をお客さんにしてはいけない」という言葉が心に残った。避難者同士でのコミュニティ作りにも力を注ぐことが大切だと思った。
- ・実際に見学や体験ができて、とてもためになる機会だった。使い慣れないものを、訓練を沢山行うことで使い慣れていくということが、大切だと感じた。ダンボールの寒さ対策としての再利用、備蓄品の仕分け、備蓄品持ち出しの順路共有など、改善していくと、より速く安全に準備できると思った。
- ・今回のイベントに参加し、有意義な体験となった。このイベントや大学が行なっている備え、学生に向けたボランティアの協力などをもっと周知するべきだと感じた。
- ・大学が妊産婦・救護所になることは知っていたが、どれくらいの人数収容されるか、発災から誰がどう立ち上げるのか具体的なことが分からなかったため、それを学べてよかった。私は今年で卒業するため、他でも生かして活動できるようになりたい。地域の妊産婦なども対象者は年々変わるため、常に知名度を上げるために地域住民対象の説明会や、学生ボランティアの訓練の機会を一年ごとなど定期的に開く必要があると感じた。
- ・普段見ることでできない備蓄倉庫を見て、備蓄品を用意するだけでなく、実際に使用する時のことを考えて用意しておくことが重要だと思いました。
- ・妊産婦・乳児救護所に関する知識を、実際に防災備蓄品などを使用して身につけることができたと感じています。本日はありがとうございました。
- ・私は宮城県出身で、幼稚園の頃に東日本大震災を経験しています。私は自宅で過ごしていたのですが、周りの友

人の中には避難所生活をしていた子たちも多く、特に0歳の弟がいた子は、避難所で赤ちゃんが泣いてしまって大変だったと言っていました。日本女子大学が妊産婦と乳児のための救護所になっていると知り、そのようなお母さんたちの助けになっているのだと思うと良い取り組みだと思います。課題点はまだまだあると思いますが、一人ひとりが考えていくことで改善していくと思うのでこのような会を多く実施していただきたいです。ありがとうございました。

- ・興味本位で友人と参加しましたが、数多くの貴重な経験をさせていただきました。興味深い面や、実際に経験して分かった面も多くあります。振り返りでもお伝えしましたが、普段からベッドでなく布団で寝ている方には、厚めのバスタオルや毛布で作った簡易布団での寝床を提供するのも良いのではないかと思います。また、パーテーションの高さが高めの身長の方だと上から見下ろせてしまうので、上から薄手のカーテン等を垂らすのが（これでも死角等の問題がありますが）良いのではないかと思います。

<Q10>今回のイベントを何をご覧になって知りましたか？（複数回答可）

JASMINE-Navi	16
Teams	3
学内関係者（教員・学生）から聞いて	5
その他	1

<Q11>社会連携教育センターでは、今後も様々なイベントを企画していく予定です。どのようなイベントがあると思いますか？ご自由にご記入ください。（任意）

- ・体験型で学べるイベント
- ・妊婦さんや乳児がいる方はマタニティブルーなどのメンタルがよくない状態の方もあるのでメンタルケアの仕方などのイベントがあるといいと思います
- ・今回のように、訓練まで行かなくても体験できる会があると気軽にいいと思いました。
- ・訓練を定期的にやる。回数やることで徐々に避難場所に関する知名度も上がると思う。
- ・防災面では、飯盒炊爨。その他地域との関わりを強めるならば大学の敷地や教室を使用したダイナミックなイベント
- ・今回のイベントのような体験型、実践に近い訓練ができる企画があると良いと思います。
- ・備蓄品を持ち出すことが難しそうだったため、暗闇で出す訓練もしてみたいと感じた。

イベント名：はじめてのノートテイカー養成講座

日 時：2025年10月2日（木）13：30～15：30

場 所：対面開催（JWUラーニング・コモンズかえで）

参加人数：19名

アンケート：19件（回収率：100 %）

<Q1>本日のイベントにどのくらい満足していますか？

満足	18
やや満足	1
やや不満	0
不満	0

<Q2>今回のイベントにご意見・ご要望・ご感想がございましたらご自由にお書きください。（任意）

- ・聴覚障害のある学生さんのお話を直接お伺い出来たのが良かった。
- ・ノートテイクとはなんだろうという所から、実際に支援されている方のお話しも伺えて、さらに練習の機会をいただけたので、非常に勉強になりました。自分で授業を受ける際も、要点を踏まえて学べるようになるのではないかと感じました。
- ・講座に参加する前は自分に出来るか不安だったが、説明や実践を通してノートテイクに参加してみたいと感じた。
- ・事前の動画からも感じたが、ノートテイクの体験をしたことでより難しさを感じた。
- ・動画のスピードで実際に打ち込むのは難しかった。特に2人で打つのは切り替えのタイミングが分からず大変だった。しかし、これから数をこなしてタイピングのスキルを身につけたい。
- ・タイピングを早く打つことに苦手意識があったので、これを機に練習しようと思った。
- ・難しかった。携帯のフリック入力だったらもっと早くできると思った。寿司打をこれから頑張る。

※原文ママ

< Q 3 > 今回のイベントを何をご覧になって知りましたか？（複数回答可）

JASMINE-Navi	17
学内関係者（教員・学生）から聞いて	2
その他	2

その他：Outlook（JASMINE-Naviの転送メール）

< Q 4 > 社会連携教育センターには聴覚障害学生支援のノートテイクボランティアチームがあります。

このチームに参加していただけますか？

参加したい	19
参加しない	0

< Q 5 > 事前視聴の動画 や 今回の講座を受講して、講師への質問がありましたら、お書きください。後日、個別に回答をいたします。（任意）

- ・タイピングではなく、フリック入力バージョンは作れませんか？

< Q 6 > 社会連携教育センターでは、今後も様々なイベントを企画していく予定です。どのようなイベントがあると思いますか？ご自由にご記入ください。（任意）

- ・トランスジェンダーの学生を受け入れるということについての説明を聞きたいです、実際に今年受け入れたのか、身体的に男性な人も入学するのかなど

イベント名：日本語を母語としない児童・生徒への日本語指導の現状から社会貢献活動を考えよう

日 時：2025年10月23日（木）13：30～15：00

場 所：対面開催（JWUラーニング・コモンズかえで）

参加人数：10名

アンケート：10件（回収率：100%）

< Q 1 > 本日のイベントにどのくらい満足していますか？

満足	9
やや満足	0
やや不満	0
不満	1

<Q2>今回のイベントにご意見・ご要望・ご感想がございましたらご自由にお書きください。

- ・ワークショップやサイトの紹介など今後にもつながることをしていただけて楽しかったです。
- ・留学生と日本語支援を必要とする生徒では日本にきた理由が異なることを改めて実感することができました。
- ・活動内容など知る事ができて良かったです。
- ・東京都の外国人生徒の現状を学ぶことができ危機感を持つとともに、たくさん学ぶことがあることに気づきました。

※原文ママ

<Q3>今回のイベントを何をご覧になって知りましたか？（複数回答可）

JASMINE-Navi	7
学内関係者（教員・学生）から聞いて	5
その他	0

<Q4>社会連携教育センターでは、今後も様々なイベントを企画していく予定です。

どのようなイベントがあるとよいと思いますか？ご自由にご記入ください。（任意）

- ・外国にルーツを持つ子ども、特に幼少期の子どもについてのイベントがあるといいなと思いました。
- ・地域の防災マップを作る企画など

※原文ママ

イベント名：JAL社員と考えるSDGs ～地域活性化～

日 時：2025年11月20日（木）13：30～16：30

場 所：対面開催（JWUラーニング・コモンズかえで）

参加人数：26名

アンケート：24件（回収率：92.3%）

<Q1>日本航空講師による、講座全体の満足度をお聞かせください。

とても満足した	23
満足した	1
満足しなかった	0
全く満足しなかった	0

<Q2>問1の回答の理由を具体的にお聞かせください。

- ・グループ別にアドバイスやフィードバックをくださってとても分かりやすかったです
- ・色々なグループの発表や、社員さんからのフィードバックが勉強になった。
- ・日本航空の人から直接お話を聞けてとても興味深く、ためになった。
- ・日本航空で取り組まれているSDGsについて深く知ることができました
- ・初めてのグループワークでいろんなことを学びました。

- ・日本航空さんの企業としての地域活性化活動について知れたため。また、グループワークで40分という短い時間内にいい準備ができたと思うから。
- ・社員の方から企業として行なっているSDGsの取り組みなどを教わり、自分自身で新たな取り組みを考えことができたため。
- ・グループワークの発表を通して、細かいフィードバックをいただいた。
- ・日本航空の方と直接お話しする機会があり、普段あまり考えることのないSDGsについて考える機会となったからです。
- ・色々なアイデアを聞くことができた。
- ・JALの社員さんや学生同士の交流を通じて地域活性化について学べたことがとても良い経験になりました。
- ・JALの取り組みについて深く理解できたからです。
- ・日本航空が取り組んでいることや地域活性化のことについてとても興味を持ったからです。
- ・JALについての知識に加えて地域のプログラムなどをたくさん知ることができた。
- ・今まで自分事として捉えることができていなかったのですが、今回のアクティビティヲ通して、もっと自分事として考え、ボランティアなどにも積極的に参加してみたいと思います。
- ・初めて会った人とも知り合えた事や、SDGsについても考えられ非常にいい機会になった。
- ・SDGsやESG戦略について以前に書いたことはありましたが、今回のご説明を通してより一層理解を深めることができました。
- ・私自身が現在、航空系・国際系に興味があり本日参加させていただいたのですが、地域活性化の観点からSDGsを考えるとということで学びを広げることができて、とても良い機会になりました。
- ・説明がわかりやすく、途中で手の込んだ動画も見れて印象に残ったから
- ・地域活性化について色々な視点から考えるきっかけになりました
- ・具体的なJALの取り組みなどを知ることができ、とても有意義な時間でした。
- ・自分の意見を深められてよかった。
- ・青森県について考えたことがなかったのでいろいろ調べてみることで新たな一面も知れたし、行ってみたいと思いました。他のグループの意見も聞けて面白かったです。
- ・日本航空さんに関して、企業としてのみならずSDGsの観点から深掘りすることができて、とても有意義な時間を過ごすことができました。

※原文ママ

< Q 3 > この講座を他の学生にも薦めたいと思いますか。

強くそう思う	20
そう思う	4
あまりそう思わない	0
全くそう思わない	0

< Q 4 > 問3の回答の理由を具体的にお聞かせください。

- ・普段の授業ではなかなか考えない分野だったので視野がひろがったからです
- ・学びが多いから。
- ・自分からは自主的に経験出来ないことを経験できるから。
- ・普段考えないようや地域活性化について考えることができるから。
- ・Jalの理念とSDGsについて学べるから
- ・JALについて知れるとともに、グループワークを実際にしっかりと行うため、力になるから。

- ・あまり考えたことのないテーマを初対面の方と深く話し合い、一つのアイデアを発表する機会が貴重であったと感じたため。
- ・3時間という時間の中で、地域活性化をグループで考え発表するという機会がないため、とても学びになる3時間だった。
- ・SDGsについての理解が深まるから。
- ・とてもやりがいがあったから
- ・今回一緒にグループワークをした学生の方とも仲良くなれましたし、なによりたくさんの学びがあったからです。
- ・様々な学科の生徒と共有できたことで、密度の濃いグループワークができたからです。
- ・JALというよりはSDGsに関わることなので誰でも参加しやすいし、私もたくさん知見を得たのでとても良かったです。
- ・他学部との関わりが持てるので、新しい視点や知識を吸収することができるから。
- ・SDGsという自分だけでは考えることが出来ないことについて、考えることができるから。
- ・いい体験だったので皆にも体験して欲しい。
- ・他学科の学生との交流を通して、SDGsへの理解、また就職活動におけるグループワークの練習をできる非常に良い機会だと思うから。
- ・JAL社員の方のお話はもちろん、自らが主体となりワークに取り組みながら学びを深めることができるから。
- ・航空業界に興味なくても、今後未来を作っていく世代としてSDGs に対して興味を持つべきだし、SDGs達成に向けて事業を行っている業界、会社の話を聞くのは貴重な経験だと思うから
- ・グループワークで色々な方と意見交換できることが良いなと思います。
- ・自身の考えをSDGsや人との関わりと関連させてアウトプットする機会はとても貴重だと感じました。
- ・青森県の魅力をSDGsの観点から意見を深められて面白かった。
- ・とても面白かったから。
- ・特にグループワークで行ったの地域活性化の課題を他の学生にも薦めたいと思います。他のグループのアイデアを聞くことでも、フィードバックを聞くことでも、新たな視野を広げることが出来ると思いました。

※原文ママ

< Q 5 >この講座を受ける前の航空業界（あるいは日本航空）の印象を教えてください。

大変良い	20
良い	4
どちらでもない	0
悪い	0
大変悪い	0

< Q 6 >この講座を受けた後の航空業界（あるいは日本航空）の印象を教えてください。

大変良い	23
良い	1
どちらでもない	0
悪い	0
大変悪い	0

< Q 7 >問6の回答で、変化した（または変化しなかった）理由について具体的にお聞かせください。

- ・元々航空業界が多い家系で色々な話を聞いていたので特に大きな変化はありませんでした

- ・環境に配慮した企業だと改めて感じたから。
- ・大変良かった印象からこの講座を通じてもっと良くなったため。
- ・元々日本航空に興味があり、事前に調べたりしていました。
- ・もっとよくなりました
- ・元々非常に興味があったが、地域活性化について理解を深められたから。
- ・日本航空の取り組みについてわかりやすく教えていただき、企業としての活動を知ることができたため。
- ・航空業界には興味があったが、SDGSについて考え地域に基づいた活動をしていることを知らなかった。飛行機だけではないビジネスについても知ることをできた。
- ・SDGsや地域活性化の取り組みを詳細に聞くことができたから。
- ・丁寧なフィードバックや企画段階でも親身に相談に乗ってくださったことがとても嬉しかったです！
- ・日本を代表する航空会社として、日本の地域や未来のための活動を会社全体で行っているからです。
- ・元々友人がJALのファンなので、とても良い印象を持っていて、本日の講座でもその印象は下がらないままだったのととても良かったです。
- ・以前も参加したことがあり、そのとき楽しいと思って今回も参加しました。日本航空の講師の方も優しく、わかりやすくアプローチしてくださったのでとても有意義な時間になりました。
- ・今まで知らなかった貴社の取り組みを知れて、より魅力的な会社であることがわかった。
- ・もともと航空業界を志望しており、本講座に申し込みましたが、やはり航空業界に入り地域活性化に取り組むことに興味湧いてきたから。
- ・航空業界でのお仕事の内容が幅広いということを改めて感じる事が出来たからです。
- ・今後航空業界について自分で調べてみようと思った。今回初めて見たホームページを知ることができて良かった
- ・JALさんがやっている事業の幅広さを再認識しました。
- ・自身の考えている通りの素敵な企業でした。
- ・特にないです！
- ・日頃からSDGsや、環境に配慮した取り組みをしていることは知っていたが、より身近に感じる事ができ、自分に興味のある内容なので面白かった。
- ・航空業界というと国際色の強く、世界と日本の越境を担う役割が強いイメージでしたが、今回の講座を受講し日本国内に関しても、数えきれない魅力を、地域と連携しながら伝えていくなど、国内においても必要な役割を担っていることを認識しました。

※原文ママ

<Q8>この講座をより良いものとするため、ご意見・ご感想をぜひお聞かせください。(任意)

- ・本日はありがとうございました。
- ・今日はありがとうございました。グループワークで地域活性化について考えることができました。とても充実した時間を過ごすことができました。
- ・JALという企業について非常によく知れるいい機会になったと思う。
- ・本日はありがとうございました。非常に多くのことを学び、それを活かすグループワークまであることがすごく受講しやすかったです。
- ・お話もワークもちょうど良いバランスで、とても有意義な時間でした。本日は貴重な機会をくださり、ありがとうございました。
- ・社員の方々のフィードバックが丁寧で優しく、私たちの意見と真摯に向き合ってくれたおかげで、グループディスカッションが上手くできたのではないかと確信できた
- ・とっても楽しかったです。来年も参加したいです！

- ・もっと話し合いの時間や、発表の時間が長いとまとめたり伝わりやすいと思いました。
- ・グループワークの際、都道府県決めで行き詰まっていた時に、講師の方が軽く触れた話題によって、自分の中の抽象的な考えが具体化言語化されたり、新たなアイデアが浮かんで来たので、改めて講師の方々の話題力、察知力がすごいものだと感じました。航空業界とSDGsの複数の面でとても有意義な時間を過ごすことが出来ました、ありがとうございました。

※原文ママ

イベント名：あつまれ！！さんた村～一緒につくるクリスマス～

日 時：2025年12月6日（土）13：30～15：30

場 所：対面開催（JWUラーニング・コモンズかえで）

参加人数：14組（一般参加34名／お子様17名・大人17名）

アンケート：14件（回収率：100%）※各家庭1部配布

<Q1>今回のイベントをどこで知りましたか？（複数回答可）

チラシ	4
日本女子大学公式ホームページ	0
JWU子育てサイエンス・ラボ メールマガジン	1
ニューズレター「ゆりのき」	6
その他	4

その他：文京区社会福祉協議会ホームページ「どっとふみこむ」、目白台運動公園掲示、大学近くの掲示、職員

<Q2>本日のイベント内容で良かったものはなんですか。（1つ選んでください。） ※複数回答も含みます。

松ぼっくりのミニツリー	11
クリスマスカード	5
カーリング	3
ポッチャ	4
その他	1

<Q3>本日のイベントは楽しんでいただけましたか。

大変満足	11
満足	3
少し不満	0
不満	0

<Q4>「Q3」の理由をお聞かせください。

- ・学生のみなさんや参加者の人と話げできた。初めて作る工作がおもしろかった。
- ・プログラムの告知記事からはどんな感じかイメージしきれずおそろおそろ来ましたが、明るくて雰囲気の良い会でした。
- ・きらきらあいてむたくさんつかえた
- ・たくさんゲームや制作ができ、親子で楽しめました！
- ・ありがとうございました。ポッチャは2～4才には難し過ぎたようです。クラフト系は楽しんでいました。学生さんたちが積極的に声掛けをされているのが良かったです。

- ・ 工作をたくさんできて子供がよろこんでいました。ありがとうございました。
- ・ カードづくりやツリーづくりは、かわいいものができたので大満足でした。カーリングは100点をとるために、何度もできてたのしかったです。
- ・ 学生さんをご親切でまた、進行もてきぱきしていてすばしかったです
- ・ 親子で参加できるクリスマスイベントが少なく、子供に上のお姉さん達との交流をもたせることが出来、色々な制作が出き大変良かったです。
- ・ 親子ともども楽しめました。
- ・ 子どもにとって”楽しく”すごせる空間づくりありがとうございました。
- ・ 参加できてよかったです。ありがとうございました。

※原文ママ

<Q5>本日のイベントにどのようなご興味があり参加されましたか。(複数回答可)

イベント内容(クイズ・ゲーム・工作・ボッチャ)に興味があったから	11
大学生と交流したかったから	2
クリスマスのイベントに参加したかったから	8
無料だったから	2
日本女子大学に興味があったから	7
福祉に興味があったから	1
家族で思い出をつくりたかったから	7
友だちと一緒に参加したかったから	0
地域とのかかわり(つながり)が欲しかったから	2
その他	2

その他：普段の生活圏から少し離れていたもので、気分も変わって良いなと思いました。

子ども向けイベントに興味があったから。

※原文ママ

<Q6>本日のイベントは社会福祉学科地域福祉ゼミの学生が企画しました。イベントを通して多世代交流の良さを感じていただけましたか？

非常にそう思う	7
そう思う	6
あまり思わない	0
思わない	0
わからない	0
無回答	1

<Q7>あなたは、どのような地域とのかかわり(つながり)を望んでいますか？教えてください。

- ・ 相互に助け合えるつながり
- ・ 気軽に話せる感じ
- ・ 中核となる施設があると、個々がつながりやすいと思いました。
- ・ 困ったときに、てきどなきよりかんで助け合えること。
- ・ このように地域の大学が中心となり子どもを囲んで行えることは素晴らしいと思います。
- ・ 子育て。

※原文ママ

<Q8>大学でこのようなイベントがあればまた参加してみたいですか。

はい	12
いいえ	0
無回答	2

<Q9>社会連携教育センターではいろいろなイベントを開催予定です。学内で開催する「対面型の交流イベント」を参加費有料で開催したら参加されますか。

参加する	11
参加しない	1
無回答	2

その他：スケジュール次第かなと思います

<Q10>その場合いくらまでなら参加されますか。

- ・1000円程度
- ・500～1000円
- ・1000～3000円くらい
- ・ものによりますが、300～500円程度でしょうか。
- ・3000円
- ・今回のような規模なら1000円程度
- ・子供と一緒に参加で500円位だと嬉しいです
- ・2000円くらい
- ・1000円
- ・～2000円
- ・500～1000円

※原文ママ

<Q11>本日のイベントについて自由なご意見・ご感想をお聞かせください。

- ・週末に時間を使つての企画、ありがとうございました。
- ・学生たちのキラキラした笑顔がとても良かったです。先生と学生の関係も良さそうで安心しました。
- ・少し早いクリスマスを楽しめました。たくさん準備していただいたのが伝わり、感謝です。ありがとうございました。
- ・学生さんとの交流が素晴らしいです
- ・貴重な体験ができましたありがとうございました。

※原文ママ

<Q12>社会連携教育センターでは、今後もいろいろな企画をしていく予定です。どのような企画があるとよいか、ご自由にご記入ください。

- ・今回のゲームに子供がとても喜んでいたので良かったです。ナゾトキとかあると大人も楽しめるかと思ったけど年齢的にもキビシイですね…。
- ・子どもたちが楽しめる企画。特に工作系がうれしいです。あと、一緒に歌うなどできても楽しいと思います。

※原文ママ

イベント名：点で打つ文字の世界を体験しよう

日 時：2025年12月11日（木）13：30～15：00

場 所：対面開催（JWUラーニング・コモンズかえで）

参加人数：8名

アンケート：8件（回収率：100 %）

< Q 1 > 本日のイベントにどのくらい満足していますか？

満足	7
やや満足	1
やや不満	0
不満	0

< Q 2 > 今回のイベントのご意見・ご要望・ご感想をご自由にお書きください。

- ・点字というところか自分とは違う世界というイメージがありましたが、歴史やルールを学んだ事によって目の見えない方の普段の生活を想像することが出来ました。ありがとうございました。
- ・初めて点字を打つことができてとても嬉しかった。点字を早く読めるになりたい。
- ・葉を作れたのが良かったです！ありがとうございました～！
- ・点字を打つ機会はなかなかないため、興味深かったです。点字入力のための道具がどのようなものなのかも知らなかったため、自分の知らない生活に触れられた気がしてよかったです。
- ・丁寧に教えていただきありがとうございました。
- ・点字でしおりを作ったのがとても良かったです。思い出としてとっておけるので良いと思いました。また、参加者の皆さんが点字や視覚障害者について積極的に質問しており、スタッフの方と話しやすい雰囲気ができていました。私も気になったことを質問でき、とても有意義に過ごせました。
- ・点字を実際に打つことができすごく良かったです！！
- ・点字のルールなど、知らなかったことを知れて良かったです！点字器を使ってしおり作りもできて貴重な機会になりました。

※原文ママ

< Q 3 > 今回のイベントを何をご覧になって知りましたか？（複数回答可）

JASMINE-Navi	8
学内関係者（教員・学生）から聞いて	0
その他	0

< Q 4 > 講座を聞いて、ボランティア活動や点字に挑戦してみようと思いましたか。

ぜひ挑戦したい	5
機会があれば挑戦したい	3
挑戦したいとは思わない	0
その他	0

<Q 5> 講座を聞いて「社会福祉協議会」がどのようなところか理解できましたか。

よく理解できた	7
少し理解できた	1
わからない	0
元々理解していた	0
その他	0

<Q 6> 社会連携教育センターでは、今後も様々なイベントを企画していく予定です。どのようなイベントがあると思いますか？ご自由にご記入ください。（任意）

回答なし

2025年度社会連携活動支援助成について

自主活動推進プロジェクトチーム 藤 井 雅 子
文学部史学科教授

2025年度で「社会連携活動支援助成」の実施は5年目を迎えたが、昨年度に引き続き、当制度の運営は社会連携教育センター下の自主活動推進プロジェクトチームが中心となり、選考方法の検討や審査を行った。メンバーは、北澤裕明・土屋智子・大沼義彦・黒岩亮子・上村隆子・水沢剛・藤井雅子(担当長)。

前年度に引き続き、1年次だけが応募できるチャレンジ枠(助成上限額5万円)、遠方の活動(同20万円)、近隣の活動(同10万円)を設定して募集を行った。その結果、25年度は7チームの応募があり、面接を経て、6チームが採択され(但しうち1チームはその後辞退)、2026年3月5日の活動報告会において以下の5チームが報告を行った。

- (1)「アイヌ文化、歴史、伝統及び技術の理解を深める」(遠方) 数物情報科学科・現代社会学科・食物学科 3名
- (2)「北海道平取町の保育施設における地域資源を題材とした運動支援活動」(遠方) 児童学科 10名
- (3)「子どもが四季を感じる経験を通じて、地域の異世代交流を促進し、地域全体のつながりを深める」(近隣) 児童学科 7名(サポートメンバー2名)
- (4)「那須高原leuにてワークショップ開催ならびに地域創生活動」(チャレンジ) 建築デザイン学科 2名
- (5)「唐丹町で伝統文化「釜石さくら祭り 鐵砲隊」の子供たちへの継承の実践」(遠方) 住居学科・大学院住居学専攻 7名

本年度初めて1年次のチャレンジ枠が採択され、充実した活動を実施してくれたことは、自主活動推進プロジェクトチームメンバー一同、喜ばしく感じた出来事であった。報告会において、毎年思うことは、いずれのチームも申請時の計画よりも、良い意味で状況に応じて活動を変更・発展させ、社会・地域への貢献や交流を実現しているということである。そして面接時とは見違えるほど成長し、自信に満ちた学生たちの報告会での姿は、この事業の意義を改めて実感させてくれる。なお各チームが充実した活動が出来た要因には、学生等の活動を深く理解し、惜しみないご協力やご支援をいただいた学外の関係各位の存在を忘れてはならない。ここに本事業にご協力を賜った関係各位に心より感謝申し上げます。

今後も学生らの自主的な社会貢献活動を支援できるように、当制度の整備に努めて参りたい。引き続きご支援ご協力をお願い申し上げます。



社会連携活動支援助成スケジュールおよび採択テーマ一覧

【スケジュール】

募集期間：2025年5月23日（金）～6月13日（金）16：00

（書類選考→面接選考→採択発表）

活動説明会：2025年7月17日（木）13：00～14：30

活動報告会：2026年3月5日（木）10：00～12：00

【採択テーマ一覧】

- アイヌ文化、歴史、伝統及び技術の理解を深める
- 北海道平取町の保育施設における地域資源を題材とした運動支援活動
- 子どもが四季を感じる経験を通じて、地域の異世代交流を促進し、地域全体のつながりを深める
- 那須高原leuにてワークショップ開催ならびに地域創生活動
- 唐丹町で伝統文化「釜石さくら祭り 鉄砲隊」の子供たちへの継承の実践

社会連携活動支援助成
事前説明会 5/22(木)

参加グループ募集

誰かのために何かをしたい！
地球の未来のための取り組み！
地域の課題を解決したい！

社会連携活動を通じた学びを応援し、より良い成果をあげていただくために、みなさんの活動経費を助成します。
この制度を活用して、新しい一歩を踏み出してみませんか。
活動に興味のある方は、事前説明会（オンライン）にご参加ください。
※エントリー希望の場合は、事前説明会参加が必須です。
※1年生限定「チャレンジ枠」！学部1年生によるフレッシュな企画を歓迎。（助成金額等詳細は募集要項参照）

大歓迎！
「地域課題」、「環境問題」、「子育て支援」に関する取り組み
本学と協定を結んでいる、文京区や北海道日高管内、苫小牧市、岩手県盛岡市での活動
学部学科の枠を超えた学生チームによるオリジナルな活動

事前説明会
（オンライン）
5月22日（木）13:00～14:00
制度についての概要説明および、ご質問、ご相談を受けます。
JASME-HyVからお申込みください。

エントリー期間
5月23日（金）～6月13日（金）
※書類選考、面接選考の流しは、募集要項をご確認ください。
※事前説明会でもご説明します。

～学生の思いを応援！24年度の採択例～

- ◆高知県後援会を訪問し、現地の様子や会話をしよう！
「美しい自然と建築から穂積町のリアルな魅力を伝える」
- ◆北海道日高管内の各地域に寄り添おう！
「北海道日高管内の保育施設における、地域活性化に繋がる運動支援活動」
- ◆地域の伝統を学ぶために！
「唐丹町で「釜石さくら祭り 鉄砲隊復活」のためのマニュアルづくり」
- ◆大学の学びを地域に還元！
「子ども縁日を通じて、地域連携を図り、住みやすい街作りへの貢献を行う。」
- ◆メダカを通して身近に感じてもらうとともに、理学の楽しさを伝える
「メダカを通して身近に感じてもらうとともに、理学の楽しさを伝える」
- ◆児童文化財を継承するために
「在日カンボジア人の子供や保護者に日本の絵本と出会う機会を提供する」

問い合わせ 社会連携室（百年館高層棟2階）



<2025年度社会連携活動支援助成実施報告>

アイヌ文化、歴史、伝統及び技術の理解を深める

申請No. 01

理学部数物情報科学科3年（代表）／3名

本活動は日本女子大学の社会連携活動支援助成の制度を活用して、「アイヌ文化、歴史、伝統及び技術の理解を深める」をテーマに実施したものである。アイヌ文化は文字による記録ではなく、「語り」や「聞くこと」を通して継承されてきた口承文化であり、その中心にあるアイヌ語は、文化そのものを支える重要な要素である。本活動では、アイヌ語を単なる「失われつつある言語」として捉えるのではなく、現代社会においていかに継承し、未来へとつないでいくかを考察することを目的とした。

活動の一環として北海道での現地調査を行った。1日目には白老町にあるウポポイを訪問し、展示見学に加え、民族衣装の着用体験、伝統料理「オハウ」や「シト（団子）」作り、狩猟体験、伝統舞踊の鑑賞などを通してアイヌ文化を五感で体験した。特に、竹製の口琴「ムックリ」の演奏体験では、音を通して自然や感情を表現するアイヌ文化の特徴を実感し、口承文化における「音」の重要性を深く理解する機会となった。

2日目には網走市の北方民族博物館を見学し、アイヌ民族に限らず、北方圏に暮らす諸民族の生活文化や技術を学んだ。厳しい自然環境の中で培われた衣服や生活用具からは、地域を越えた共通性と独自性が見られ、日本という枠組みを超えた広い視点からアイヌ文化を捉え直すことができた。

また、学内では2025年11月27日に百二十年館にて「アイヌ語ラジオ体操セミナー」を開催した。本セミナーは、アイヌ語を「過去の遺産」ではなく、誰もが親しめる「日常の言葉」として体感してもらうことを目的に企画したものである。内容は、「知る」「話す」「動く」の三段階で構成し、アイヌ語の現状や歴史を学び、地名の由来や挨拶を実践し、最後に沙流方言の掛け声に合わせたラジオ体操を行った。参加者からは、言葉の響きを身体で感じることで文化を身近に捉えられたとの感想が多く寄せられた。

本活動を通して、アイヌ文化を知識として学ぶだけでなく、体験を通して理解し考えることの重要性を実感した。また、言葉を含めて文化を尊重し、正確かつ丁寧に伝える責任についても強く意識するようになった。伝えることと受け取ることは常に関係性の中で成り立つものであり、本活動がアイヌ語や口承文化との向き合い方を考える一助となることを期待したい。

北海道平取町の保育施設における地域資源を題材とした運動支援活動

申請No. 02

家政学部児童学科3年／10名

私たちは、「北海道平取町の保育施設における地域資源を題材とした運動支援活動」を行いました。活動目標は、子どもたちに「運動遊びを通して体を動かすことの楽しさを身近なものに触れながら感じてもらうこと」「北海道の環境資源である魚について興味を持ってもらうこと」の2点です。

2025年9月1日から3日間、北海道平取町に滞在し、2日にバチラー保育園、3日に二風谷保育所を訪問しました。平取町が属している北海道日高管内は漁業が盛んなため、特産物の一つである魚を運動遊びの題材としました。運動遊びを考案するにあたって、文部科学省が提示している「幼少期に身につけたい36の基本動作」を多く取り入れることを意識しました。

今回、「おさかなパラダイス」と「おさかな体験レース」の二つの運動遊びを考案し、実践しました。「おさかなパラダイス」は、私たちが作詞・作曲・振付を行ったオリジナルダンスです。北海道の特産物である魚になりきって楽しく踊ることを目的としています。「おさかな体験レース」は、日高管内の特産物であるししゃも・鮭になりきるサーキット遊びです。様々な障害物を乗り越えながら魚を表現し、最後に酢飯に扮した学生の背中に乗り、寿司になりきったところで終了します。「おさかなパラダイス」では、実践を重ねる中で年齢に応じてダンスのテンポや振付を一部調整し、全ての子どもが楽しめるように改善しました。「おさかな体験レース」では、サーキット遊びを通して、普段あまり使わない動作にも自然と取り組む様子が見られました。

運動遊びの実践の後、それぞれの園長先生からお話を聞く機会をいただきました。アイヌ語を取り入れた保育や地域全体で子どもたちを育てていく意識に地域の特性がうかがえました。

事後活動として、子どもたち向けにアイヌ語を取り入れたクリスマスカードを作成し、保護者向けに活動の様子を伝えるおたよりを作成しました。おたよりには、「おさかなパラダイス」のダンス動画と家庭でできる運動遊びの提案もあわせて盛り込みました。

今回の活動を通して、運動遊びを通じて地域資源に触れる活動の良さを実感しました。これらの学びを、今後の保育計画に活用していきたいと考えています。



子どもが四季を感じる経験を通じて、地域の異世代交流を促進し、 地域全体のつながりを深める

申請No. 03

家政学部児童学科2年／7名

サポートメンバー2名

本活動は、家政学部児童学科9人（メンバー7人、サポートメンバー2人）で結成されたグループによって実施した。活動のテーマは、「子どもが四季を感じる経験を通じて、地域の異世代交流を促進し、地域全体のつながりを深める」である。子どもたちに季節の行事を楽しむ機会を提供するだけではなく、保護者同士の交流が生まれる環境作りを行うことも目標に、10月には秋のイベント、12月にはクリスマス会の開催を企画した。

当初、10月25日に大鳥神社にて秋のイベントを行う予定だったが、雨天のためやむを得ず中止となった。イベントに向け、出店予定の地域のお店の方々との連絡や、制作コーナーの準備、チラシ作りなどを進めていた。この経験から、イベント運営には予測できない状況への対応力が求められること、また事前に参加人数を把握できないと準備が難しくなることを学んだ。さらに、外部の方々との打ち合わせに余裕を持てなかった点が大きな改善点として挙げられた。そこで、イベント中止後すぐにメンバーと話し合いを行い、次の活動に向けて準備を開始した。

12月18日には目白台親子サロンほぐほぐにて「クリスマス会」、12月21日には大塚地域活動センターにて「つくってあそぼうクリスマス工房」を開催した。クリスマス会は、対象年齢が0才からであったため、手形スタンプ制作、フォトブースを用意し、乳幼児親子が安心して参加できる環境づくりを行った。当日は初めてほぐほぐを利用する親子も複数参加し、新たな地域のつながりのきっかけを生み出すことができた。クリスマス工房では、対象年齢を6歳以下とし、貼り絵によるクリスマスツリー作り、スタンピングリース作り、廃材を使ったベルづくり、フォトブースに加え、福笑い・ボーリング・輪投げなどの遊ぶコーナーを設置した。秋のイベントでの反省を踏まえ、クリスマス工房では事前申込制を導入した。その結果、参加人数や年齢層を把握することができたため、当日の規模感や必要物品、運営体制を具体的に整えることができた。クリスマス工房は、24組55名（内子ども29名）のたくさんの親子に参加していただくことができ、多くの地域家庭との交流の機会を創出することができた。

本企画の活動を通して、子育て家庭が地域の中で交流できる場をつくり、「子育て家庭と地域を繋ぐ」というテーマに対して一定の成果を得ることができた。一方で、今回は室内開催中心となったため、地域の幅広い世代との交流に十分に繋がらなかったという課題も残った。今後は、地域住民の方々も参加しやすい環境を整え、多世代が自然に関わり合える形を発展させ、地域全体で子育てを支えるつながりづくりを目指していきたい。

那須高原leu.にてワークショップ開催ならびに地域創生活動

申請No. 05

建築デザイン学部建築デザイン学科 1 年 / 2 名

(チャレンジ枠)

地域創生の課題と本企画の背景

・日本における地域創生の課題

現在、日本では人口減少と高齢化が進行しており、地方都市では若年層の都市部流出が続いている。その結果、地域コミュニティの縮小や交流機会の減少が課題となっている。これは特定の地域だけの問題ではなく、全国的に共通する構造的課題である。また、そんななか各地で地域活性を目的とした“交流拠点”が生まれている。しかしその多くは、補助金に依存していたり、一時的な盛り上がりで終わってしまったり、運営者に過度な負担が集中したりと、持続可能性という点で課題を抱えているのも現状である。

・なぜ那須塩原なのか

那須塩原市も同様に、人口減少や高齢化の影響を受けている一方で、豊かな自然資源や観光資源を有し、移住促進や地域活性に積極的に取り組んでいる地域である。移住支援制度や交流拠点の整備など、「外から人を受け入れる土壌」が形成されている点から私たちの企画と“その地域で人が関わり続けるきっかけづくり”という観点で実施先として非常に相性が良いと考えた。

・ゲストハウスleu.という拠点に着目した理由

その象徴的存在がゲストハウスleu.である。leu.は単なる宿泊施設ではなく、地域と外部をつなぐ交流拠点として機能しており、経営として成立しながら地域との関係づくりを実践している場である。単なるボランティア的施設ではなく、経営として成立しつつ地域に開かれている存在であることに強い関心を抱いた。私たちは、このような持続可能な地域拠点モデルを現地で学びたいと考え、ゲストハウスleu.に着目した。

・ワークショップ企画にあたって

単に人口を増やすというだけでなく、地域と継続的に関わる関係人口をいかに創出するかが重要だと考えた。本ワークショップを企画するにあたり、私たちは「一日限りで終わらない取り組み」にすることを意識した。地域活性は短期間で成果が見えるものではないためだ。みんなで竹を加工し、装置を組み立て、同じ食卓を囲むという体験を共有することで、参加者同士や地域への心理的距離を縮め、「楽しかった」という感情を「また来たい」という愛着へとつなげる。そして那須塩原を“訪れる場所”から“帰ってきたくなる場所”へと変えていくための種まきとして企画した。

ワークショップ企画書

ワークショップタイトル	みんなで作ろう！1から流しそうめん 🍜 🍴
実施目的・方針	本ワークショップは、参加者が共に作業し、共に食事を楽しむ過程を通じて、相互理解と交流を深めることを目的とするものである。特に、夏季ならではの風物詩である「流しそうめん」を主軸に据えることで、世代や立場を超えた自然なコミュニケーションの促進を図る。 竹の設営といった準備作業から、食を囲む時間までを一連の体験として設計することにより、地域資源の活用と協働による場づくりの意識を高め、地域内外の参加者に対して本地域の魅力を再認識させる。 本事業は地域に根差した交流の場の創出と、人と人との持続的なつながりを育む地域創生の取り組みとして位置づける
実施概要	・竹の伐採または組立体験（事前に準備済の場合は組立と設置のみ） ・流しそうめんの実施（そうめんの準備、葉味づくり、衛生管理を含む） ・参加者同士の交流タイム（感想共有、自由交流など）
開催日時	開催日：8月31日 開催時間：11:00～15:00
場所	会場名：ゲストハウスleu. 住所：〒325-0111 栃木県那須塩原市板室46 アクセス 東北自動車道「黒磯板室IC」から車で18分 / 東北新幹線・東北本線「那須塩原駅」からタクシーで25分。
参加費	500円
想定人数	3～10人
宣伝方法	公式HP、公式Instagram フィッシュランドにチラシ掲示、呼び込み
備考	・雨天時は内容を一部変更し、室内にて実施予定 ・アレルギー等に配慮した食品の準備あり（事前申告制）

ワークショップ報告書

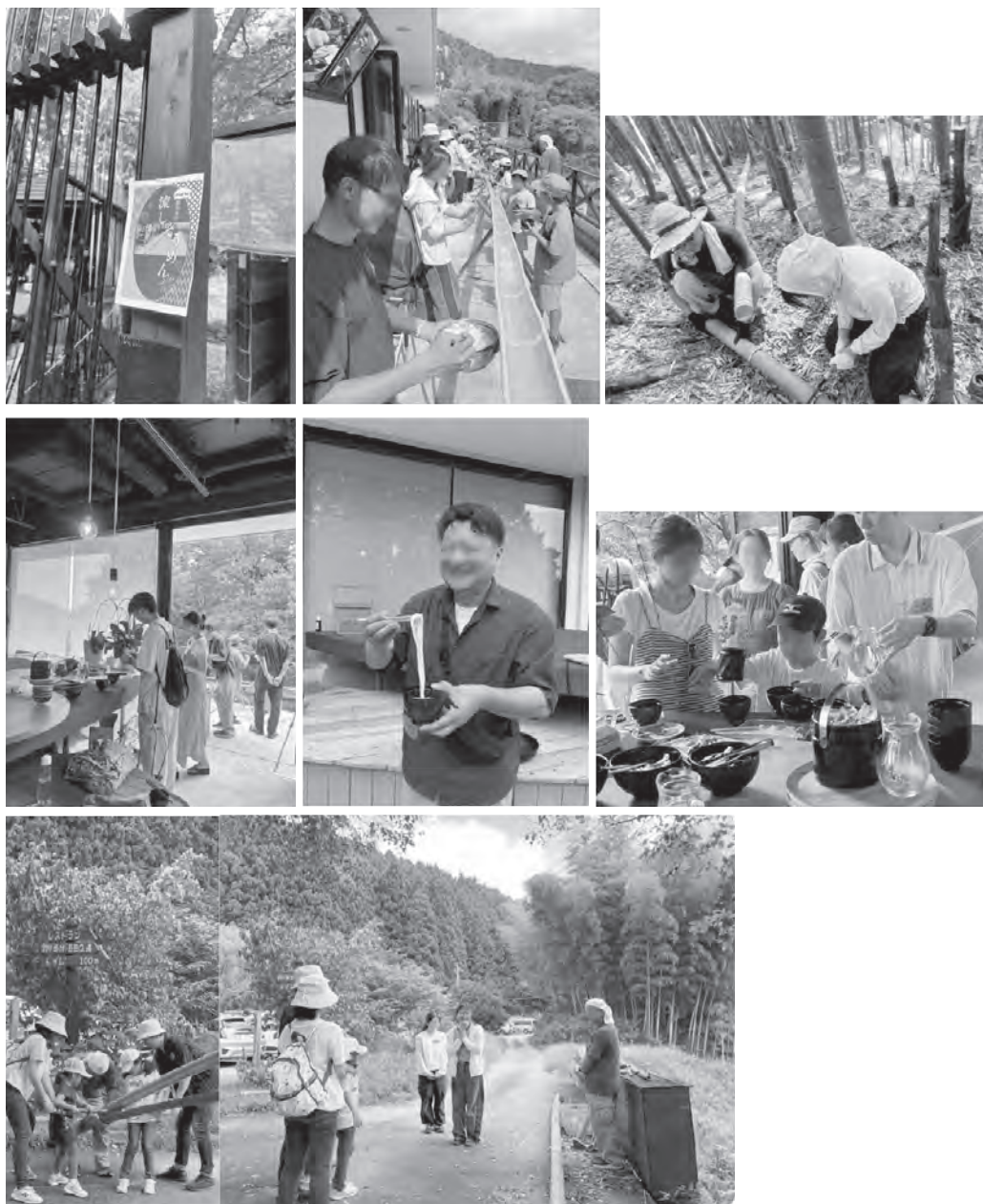
ワークショップ実施実績

参加人数	21人			
決算	費目	主な使用目的	見積書の有無	金額
	交通費	leu.までの交通費（行き帰り）高崎	有	¥8,960
	交通費	leu.までの交通費（行き帰り）高麗	有	¥9,924
	施設使用料	leu. バルコニー使用費 500 x 一般参加15人	無	¥8,000
	その他	材料費	有	申請済
	その他	食材費	有	申請済

ワークショップ タイムスケジュール

時間	概要・進行方法
	準備
11:00～	集合・アイスブレイク
11:30～	作業開始
13:00～	作業終了
13:30～	食事 & 私たちについて
15:00～	解散
以降	片付け

・当日の会場の様子



・掲載実績

実施告知

<https://leu.jp/event/somen2025/>

実施レポート

https://leu.jp/log/somen_diy/

体験記

<https://leu.jp/recommendation/freacco-oyudu/>

・来場者の声

一から流しそうめんの台まで作るという普通できない体験ができた！！

他の参加者の方と協力しながら話していたら意外と近くに住んでいることが発覚！今後ともお付き合いしていきたい

こういうイベントがまたあったら参加したい！！

唐丹町で伝統文化「釜石さくら祭り 鐵砲隊」の子供たちへの継承の実践

申請No. 07

家政学部住居学科4年（代表）／7名

○スケジュール

8/2 海まつり【中止】

8/6 漁協へのヒアリング

8/6 唐丹歴史文化・3世代遊び場ワークショップ

10/4 唐丹の日・三世代遊び場マップ展示

12月～ 学内展示

○ワークショップに向けた事前調査

本活動は、岩手県釜石市唐丹町において実施した。当初は「釜石さくら祭り」における鐵砲隊の文化継承をテーマとしたワークショップを計画していた。しかし、鐵砲隊は唐丹町の中でも山谷地区を中心に行われている行事であり、特定地区の文化に焦点が偏ってしまうのではないかと意見をいただいた。そのため、より広い視点から唐丹町全体の文化や暮らしを捉える方向へと方針を転換した。

事前調査として、当初は「唐丹海まつり」への参加を通じて、地域住民へのヒアリングを行う計画であったが、海まつりが台風の影響により中止となったため、釜石市郷土資料館や漁協などに訪れて情報収集を行い、ワークショップで使用する地図を作成した。



ヒアリングの様子

○唐丹ワークショップ概要

・実施日：8月6日（水）

・場所：唐丹公民館

当日は約40名が参加した為、参加者を複数のグループに分け、グループごとでワークショップを実施した。各グループに唐丹町の地図を配布し、参加者が子供の頃に遊んだ場所や日常的に集まっていた場所などを、ポストイットに記入して地図に貼ることで可視化した。参加者の年齢層は、小学生と高齢者に偏っていたものの、その構成によって、防潮堤が出来る前後の両世代の遊びの内容や、地域との関わり方の違いが明確に浮かび上がった。また本ワークショップは子どもと高齢者の交流が生まれる場ともなった。

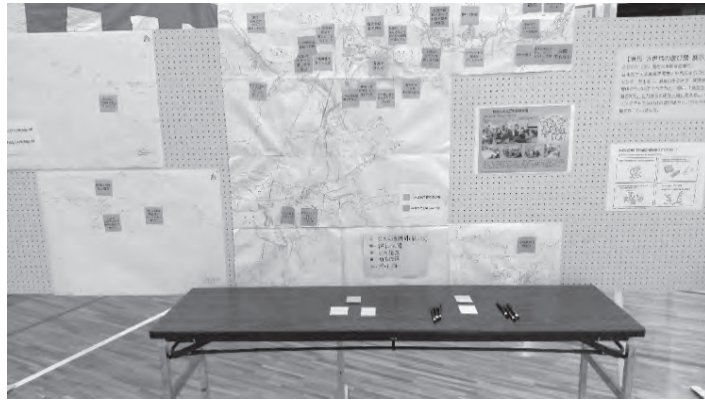


ワークショップの様子

○作成したマップの展示

- ・実施日：10月4日（土）
- ・場所：唐丹小中学校 体育館

唐丹町で行われた「唐丹の日」地域安全大会において、ワークショップで地域の方に書き込んでいただいた地図を展示し、さらに来場者にも新たに情報を書き加えていただいた。



掲示の様子

○「山谷御鐵砲組」学内掲示

- ・実施日：12月～
- ・場所：百二十年館 JWUラーニング・コモンズかえで

唐丹町で十分に扱うことができなかった「山谷御鐵砲組」の継承に向けた取り組みとして、大学構内に掲示するポスターを作成した。

山谷御鐵砲組は、釜石市で開催される「釜石さくら祭り」において、大名行列の先陣を務める伝統的な団体であったが、東日本大震災以降の山谷地区における世帯数の減少の影響を受け、2024年の祭りで不参加となった。この状況を受け、2024年より日本女子大学の学生有志が山谷御鐵砲組の復活を目指した活動を継続しており、本ポスターもその一環として実施した。

ポスターでは、釜石さくら祭りの概要や山谷御鐵砲組の所作について、動画やイラストを用いて視覚的に分かりやすく解説し、大学構内という若い世代が集まる場から山谷御鐵砲組への理解と関心を広げ、将来的なさくら祭りでの復活を後押しすることを目指した。

学外（自治体等）主催のイベント等への 学生ボランティアの参加について

本学では、ボランティア活動を「地域や社会が抱える多様な課題に対して学生が実践的に取り組むことにより、社会で力を発揮するための豊かな行動力を身に着けるための活動」と位置付け、学生のボランティア活動を推奨している。また、本学学生はボランティア活動に積極的であり、近隣自治体からの学生ボランティアのリクエストを適切に学生に周知し、社会活動の機会を提供できるよう運用している。

学生ボランティア募集は、学内掲示だけではなく、学生向けポータルサイトにて積極的に告知を行い、より適切なタイミングで学生に情報を届けている。安定して学生を派遣することができ、また参加学生の把握と管理につなげている。繰り返し募集の連絡をいただく自治体や団体も多く、本学学生が十分に責務を全うしていることと考えられる。

社会連携教育センターでは、学生にとって有益で教育的配慮のあるボランティア活動に安心して参加し充実した活動を遂行するために、当センターが学生に紹介するボランティア募集团体が満たすべき基準を制定し、安全で適切なボランティア活動を学生に案内できるよう努めている。

参加活動件数（のべ）	41件
参加学生数（のべ）	147名

【主な派遣先】

活動内容：地域イベントでの運営サポートなど

文京区

豊島区

北区

川崎市多摩区 他

地域連携報告

心理相談室活動報告

社会連携教育センター分室心理相談室長 堀江桂吾
人間社会学部心理学科准教授

心理相談室について

心理相談室は、地域住民を対象とした心理相談サービスを提供し、地域住民のメンタルヘルス向上への貢献と、実践力のある臨床心理士・公認心理師の教育・養成を目指す2つの側面を備えている。西生田キャンパスからの移転に伴い、2021年5月に開室した。新型コロナウイルス感染状況を鑑み、手洗いや換気、パーティションの使用等感染対策下での対面相談を実施してきた。なお、2024年4月1日以降は、パーティションは廃止している。

2025年4月からは、料金の改定を行い、一部料金が値上げとなった。また、本年度はホームページの構成を見直し、視認性を向上させた。さらに新たな取り組みとして、2025年8月と2026年3月に、それぞれ2週間ほど、Googleリスティング広告を実施した。

相談業務においては、申込み問合せ数は71件（うち受理面接30件）、総面接回数は724回であった（3月末時点）。ホームページをきっかけとした問い合わせや、近隣の医療機関・教育機関からの紹介が続いている。

また、12月14日（日）には、日本女子大学人間社会学部心理学科主催・心理相談室共催セミナーを開催した。本学児童学科卒業生である加藤志ほ子先生（南青山心理相談室）をお招きし、「臨床現場で役に立つ心理アセスメントの所見作成に向けて」というテーマでご講演いただいた。昨年度から引き続き対面で実施し、105名の方が参加した。

そして、大学院生及び修了生の臨床実践及び研究成果の発表の場として、紀要第23巻を刊行した。同巻には、セミナー内容の報告も収録している。

心理相談事業（心理相談室）

室長 心理学科准教授 堀江桂吾

相談担当者 心理学科教授 青木みのり 塩崎尚美 川崎直樹

心理学科臨床専任助教 心理学科非常勤助手

人間社会研究科心理学専攻臨床心理学領域在学生 同研究生 嘱託相談員

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談件数	59	63	60	65	55	54	53	57	56	74	65	63	724

（3月31日現在）

文京区妊産婦・乳児救護所と文京避難所大学について

建築デザイン学部建築デザイン学科 教授 平 田 京 子

文京区との協定に基づき、災害時には、妊産婦・乳児救護所が日本女子大学新泉山館に開設される。その運営体制の確立や、物品の準備等を進めることが喫緊の課題となっている。避難者である0歳の赤ちゃんとお母さん、妊婦の方々（文京区の想定では収容人数妊婦80人、母子80組 合計240人）を守る体制を確立するため、本学では、次のような研究・授業と連動した事前準備型の活動に注力しており、教職協働・学生との協働体制の構築を試みている。また地域の防災人材育成のため、文京避難所大学および防災士講習関連の活動を実施した。

2025年度には、下記の活動を行った。

1. ボランティアウィーク 新入生や在学生への学内ボランティア教育の周知活動

新学期の履修登録期間中に、社会連携活動や社会連携教育認定プログラム、社会連携活動関連授業の紹介を行った。

2. 教職協働、学生との協働体制構築

JWU社会連携科目での学生リーダー育成、授業での学生主体型グループ演習

JWU社会連携科目（全学学生対象、2年次以上）「地域・企業と未来を創るクリエイティブ・プロジェクト演習A」（担当：建築デザイン学科 平田京子）の授業では、学生リーダーとしてのスキルを育成するほか、グループ演習の形で救護所運営計画を立案、文京区や大学事務局の前で7月にプレゼンテーションを行い、指導を受けた。発想をプレゼンして講評を受ける形であり、区にも波及効果があるため、学生の満足度も高かった。

3. 文京区との協働プロジェクト「文京避難所大学」（第1回）

2019年度より実施している、文京区との協働プロジェクト「文京区防災士・防災リーダー全体会 文京避難所大学2025」において、地域の防災人材を育成する実践的なリーダー研修を実施した（2025年12月9日）。年々段階を経て内容を高度化しており、区立中学校避難所の現場で実際に開設するタイプのグループ研修を実施し、支援者が課題を共有した。地域の高校生も参加しており、運営に前向きな人々がグループワークを通じて話し合い、熱心に実習が行われた。当該避難所の住民リーダーも参加し、気づいた点を参加者とシェアしていた。全体の運営方針や収容力について、文京区と共に研修・指導を行い、知識と技能の向上を図った。



文京避難所大学2025年度第1回の様子

4. JWU子育てサイエンス・ラボ

＜子育てサイエンス・カフェ＞（文京避難所大学（第2回））

「みんなの避難所教室 『妊産婦・乳児救護所』の現場を見て、いざというときの準備を始めよう」

2025年度の文京避難所大学第2回は、2026年3月14日（土）にJWU子育てサイエンス・ラボ主催で行い、本学が妊産婦・乳児救護所になることから、その現場見学と備蓄品の展示、文京区防災危機管理課と本学からの親に対する研修を行った。現場を見て、理解を深め、互いに交流することを企図しており、文京区内外の0才の赤ちゃんをもつ、あるいは妊婦の家族が参加し、お互いに交流を深めた。地域防災人材育成として、文京区防災士・防災リーダーにも広報し、支援者の立場の参加者と救護所生活者が両者そろってのグループトークを実施した。救護所見学・グループトークの進行は、大学生のボランティアおよび住居（建築デザイン）学科平田研究室の卒論生が支援し、学生協働型で行った。



文京避難所大学2025年度第2回の様子

2025年度文京区健康・体力増進事業について

家政学部児童学科 教授 杉 山 哲 司
准教授 澤 田 美砂子

文京区の委託事業である幼児の体力向上推進事業（本学との連携をととして幼児の運動遊びの充実と運動意欲の向上を図る）について、2025年度の委託内容は、（１）幼児の運動意欲や体力の向上のための支援事業、（２）体力向上イベントの実施 であり、下記にその活動詳細について報告する。

（１）幼児の運動意欲や体力の向上のための支援事業

2025年度は、体力維持向上に関して各園の園児の状況や課題等の聞き取りを行い、園ごとに、体力の維持向上に係る課題解決に向けた支援の方法についての講義、研修会、教職員への実技指導等を実施した。文京区立幼稚園全10園のうち、杉山は後楽幼稚園・元町幼稚園・柳町幼稚園の3園、澤田は根津幼稚園・明化幼稚園の2園、計5園において事業を実施した。

（２）体力向上イベントの実施

「クライミングにチャレンジしてみよう！」の第1回を2025年10月4日、第2回を2025年12月6日に、本学第一体育館にて開催した。各回とも、文京区内在住・在学の2026年度就学予定の幼児、および小学1、2年生あわせて20名の子どもたちが、保護者とともに参加した。講師は本学身体運動科目「クライミング」の非常勤講師・西谷善子先生に依頼した。また、スタッフとして本学身体運動科目非常勤講師1名および身体運動助教1名に加え、身体運動演習「クライミング」受講学生3名がサポートを行った。初めは上ることをためらっていた子どもも、講師やスタッフの誘導によって、少しずつ高いホールドに手足を置くことに挑戦するうちに、クライミングウォールに貼られた目標（キャラクターパネル）に到達できるようになり、その達成感と喜びに目を輝かせていた。このイベントへの参加を通じて、自分で工夫しながら体を動かすことの楽しさを感じ、体を動かす遊びや様々なスポーツ種目に対する意欲の向上につながることを期待したい。



文京区連携活動報告

目白キャンパスが所在する文京区と本学は、幅広い分野でより一層の連携と、緊密な協力体制を築くために「相互協力に関する協定」を2006年に締結し、様々な取り組みを共催している。

文京区より指定を受けている妊産婦・乳児救護所の運営について、JWU社会連携科目で開講されている「地域・企業と未来を創るクリエイティブ・プロジェクト演習A」（建築デザイン学科平田教授担当）にて継続して取り上げ、学生・教職員、文京区が三位一体となり検討を行っている。防災の観点からは、文京避難所大学へ講師を派遣し、区内の防災士の育成に努めている。また、健康・体力増進事業の推進については、児童学科協力のもと、区立幼稚園を訪問して作成したアセスメントを元に、幼稚園の教職員への研修を行った。本学体育館においては、昨年同様にクライミングウォールを活用した体力向上イベントを実施し、多くの区内の子どもたちの体力向上に貢献した。

また、区内に多くの大学がある文京区においては、文京区社会福祉協議会主催による「文京区学生支援担当者連絡会議」を定期的に開催し、学生が地域社会でより活躍するために学生支援担当者が情報交換を行う学生支援担当者連絡会議に参加している。同協議会とは、着用しなくなった学生服を必要な方につなぐ「学生服リユースプロジェクト」でも連携活動を開始し、初年度は計66点の寄付につなげることができた。

上記連携活動に加え、2025年度からは文京区担当者を始め、目白台における地域の施設ご担当者により構成される目白台エリアアップミーティングにも参加し、より地域に密接した課題や連携への取り組みに努めている。

<区内大学地域連携担当者会議>

●令和7年度 第1回区内大学地域連携担当者会議

日時：令和7年7月30日（水）14時～15時（於：シビックホール会議室）

議題：・区からの周知事項

- ・大学からの周知事項
- ・大学間における情報共有について
- ・今年度の区内大学学長懇談会について

●令和7年度 第2回区内大学地域連携担当者会議

日時：令和7年11月20日（木）9時15分～10時15分（於：シビックホール会議室）

議題：・区からの周知事項

- ・大学からの周知事項
- ・大学間における情報共有について
- ・今年度の区内大学学長懇談会について
- ・大学と区の連携実績について

<令和7年度 文京区内大学学長懇談会>

日時：令和8年1月29日（木）10時30分～13時

場所：東京ドームホテル5階小宴会場

懇談テーマ：大学における生成 AI の取扱いとその活用について

<文京避難所大学>

●令和7年度 文京区防災士・防災リーダー全体会 第1回文京避難所大学

日時：令和7年12月9日（火）18時～20時

場所：文京区立第一中学校

議題：ワークショップ「避難所開設キットを使用した避難所運営訓練」

講師：日本女子大学建築デザイン学部建築デザイン学科 教授 平田京子

日本女子大学名誉教授 石川孝重

- 令和7年度 第2回文京避難所大学＜第26回子育てサイエンス・カフェ＞みんなの避難所大学ー『妊産婦・乳児救護所』の現場を見て、いざというときの準備を始めようー

日時：令和8年3月14日（土）10時～12時

場所：日本女子大学 目白キャンパス 新泉山館

講師：日本女子大学建築デザイン学部建築デザイン学科 教授 平田京子

文京区防災危機管理課

＜健康・体力増進事業＞

- 第2回体力向上イベント クライミングにチャレンジしてみよう！

日時：令和7年10月4日（土）10時30分～12時

場所：日本女子大学 目白キャンパス第1体育館

対象：区内在住・在園在学の年長児及び小学1・2年生とその保護者1名（20組）

- 第4回体力向上イベント クライミングにチャレンジしてみよう！

日時：令和7年12月6日（土）10時30分～12時

場所：日本女子大学 目白キャンパス第1体育館

対象：区内在住・在園在学の年長児及び小学1・2年生とその保護者1名（20組）

＜令和7年度 文京区の大学に通う学生による地域活動報告会＞

日時：令和8年3月10日（火）14時～17時

場所：拓殖大学文京キャンパス

主催：文京区社会福祉協議会

登壇団体：つながる子育てプロジェクト（代表 児童学科2年）テーマ「地域と子どもをつなぐ」

日本女子大学薬袋研究室（地域居住）（代表 住居学科4年）テーマ：釜石唐丹文化継承



文京区防災士・防災リーダー全体会



クライミングにチャレンジしてみよう！



文京区の大学に通う学生による地域活動報告会

川崎市多摩区・大学連携事業について

「人生100年時代におけるあなたの未来を考えよう！ 市民のためのキャリアデザインセミナー」

人間社会学部社会福祉学科教授 黒 岩 亮 子

令和7年度多摩区・大学連携事業として、「人生100年時代におけるあなたの未来を考えよう！市民のためのキャリアデザインセミナー」を企画・実施した。

私の専門は地域福祉で、地域住民による福祉課題解決のための自主的な活動のあり方に関心を持っているが、セミナーを企画した動機もそこにある。地域では、住民の孤立化をはじめとする様々な課題が生じているが、その解決策として町内会による見守り活動、ボランティアによるサロンの開催などが行われている。しかし、活動の担い手の高齢化、不足が大きな問題となっている。

一方で地域には、「何か活動したい」と思っているが既存の活動には参加しづらいという人もいる。特に、現在は女性も高齢者も働くことが一般化している中で、そのような人たちに適した参加の仕方があるのではないかと考えていた。そこで、自身のキャリアと共に地域での活動についても考えることが出来るように、キャリアについての3回の連続セミナー（7・8・9月）の後に、「越境学習」と称して地域での活動を推奨する内容を、キャリアコンサルタントの岩崎玲子先生と共に考え、実施した。

セミナーには区報を通して20代から60代までの男女15名（多摩区在住11名）が参加し、自己理解や未来設計と共に参加者同士の交流も深めた。「越境学習」に先駆けて、区内福祉施設へのアンケート調査を実施し、44施設から参加者をボランティアとして受け入れることが出来るとの回答を頂いた。実際は、「越境学習」の希望者7名のうち3名がこれら福祉施設で活動を行い、コミュニティカフェや食料配布などの地域での活動をした人もいた。活動期間中には岩崎先生が活動上の悩みなどの相談に乗ることで、活動の継続を支援した。1月にはセミナー参加者全員を対象としたフォローアップセミナーを実施し、半年にわたる自身の学びや地域での活動を振り返った。

参加者にはインタビュー調査も実施した。「越境学習」では馴染みのある場所（会社等）を離れて、新しい環境（福祉施設等）に身を置くことで、様々な発見、成長をすることが出来たようだ。セミナーでじっくりと自己を見つめたからこそその学びの深まりも実感した。また、福祉施設からもこうした活動を歓迎する声が聞かれた。福祉やボランティアではなく、キャリアや学習というテーマに惹かれてセミナーに参加した人も多くいたことから、地域での活動の参加へのアプローチについても示唆を得ることが出来た。

川崎市多摩区連携活動報告

川崎市多摩区と明治大学・専修大学・本学の3大学は2005年より多摩区・3大学連携協定を締結しており、様々な取り組みを共催してきた。2025年度の「多摩区3大学コンサート」には、初の参加となる本学公認サークル「箏曲研究会」が出演した。また、大学・地域連携事業においては地域コミュニティの促進を目的に、「地域で活動したい市民のためのキャリアデザインセミナー」を提案し採択された。（社会福祉学科 黒岩教授担当）川崎市が「3大学と地域がつながるまちづくり」をテーマに開催した第77回車座集会においては、本学教員、学生、事務職員が参加し、それぞれの視点から大学と地域連携についての意見交換を行った。

<多摩区・3大学連携協議会>

●第1回

日時：2025年5月16日（金） 9時30分～

場所：多摩区役所

議題：・令和7年度インターンシップについて

- ・令和7年度大学・地域連携事業について
- ・多摩区3大学コンサートについて
- ・大学生の地域参加促進事業（たまなびプログラム）について
- ・20周年記念広報パネル作製について

●第2回（持ち回り審議）

日時：2025年10月15日（水）～27日（月）

議題：・域学連携まちづくりシンポジウムについて

- ・令和7年度インターンシップについて
- ・大学生の地域参加促進事業（たまなびプログラム）について
- ・多摩区3大学コンサートについて
- ・20周年記念広報パネル展示について
- ・車座集会の開催及び地域連携に関する意見交換の結果について
- ・3大学連携協議会協定の更新について
- ・令和7年度大学・地域連携事業中間報告について
- ・令和7年度地域向け情報誌（たまなびNews）の編集会議について

●第3回

日時：2026年1月28日（月）10時30分～

場所：Zoom ミーティング

報告事項：・多摩区3大学コンサートについて

- ・大学生の地域参加促進事業（たまなび）について
- ・生田緑地エントランススポットについて
- ・車座集会の実施結果について

協議事項：・令和7年度大学・地域連携事業報告会について

- ・令和8年度大学・地域連携事業について

<多摩区3大学コンサート>

日時：2025年11月8日（土）14時開演

場所：川崎市多摩市民館ホール

参加：日本女子大学 箏曲研究会



<2025年度大学・地域連携事業報告会>

日時：2026年3月7日（土）10時30分～12時

場所：多摩区役所

「地域で活動したい市民のためのキャリアデザインセミナー」

担当教員：人間社会学部社会福祉学科教授 黒岩 亮子



板橋区立中央図書館との連携事業「親子読み聞かせ講座」

家政学部児童学科准教授 今 田 由 香

令和7年度「楽しく学ぼう！親子読み聞かせ講座」が2025年9月18日（木）に板橋区立中央図書館で開催された。この講座に関わるようになって4年が経つが、昨年に続いて参加して下さったご家族がおり、再会を喜ぶとともに、赤ちゃんの成長に驚きもした。日差しの差し込む明るい図書館ホールで、はじめに赤ちゃん絵本に施されたさまざまな工夫について紹介し、その後、3年のゼミ生たちも参加して、赤ちゃんのご家族とともに絵本を開いて、触れ合いや会話を楽しんだ。

本講座の名称は「親子読み聞かせ講座」であるが、私は、選書や読み聞かせの技術よりも、絵本というメディアの特徴を知っていただき、気負わずに、読書を楽しんでいただけたらと思っている。子どもと絵本を読んでいると、さまざまな発見や変化がある。それらを見逃さずに、絵本を開くことで生まれる楽しいひとときを大切にしてくださいと、毎年お伝えしている。もちろん、愛着の形成や言葉の育ちなど、絵本が子どもにもたらすものは多くあるが、それらは、あたたかな時間の「おまけ」のようなものである。保育の場では意図をもって絵本を読むこともあるが、家庭ではもっと自由な読書で構わない。そのような考えも講座の中でお伝えしている。

参加者からは、「正しい読み聞かせの方法があるのかと悩んでいましたが、楽しく心をこめて自由に読むことが大切だと分かりました。」「読み聞かせの際、なかなか聞いてくれないと感じていましたが、発達段階の途中だと知り、今後の反応が楽しみになりました。学生さんの優しい声や楽しそうな読み方もとても参考になりました。」「学生が楽しそうに読み聞かせをしてくれ、子どもがにこにこして嬉しかったです。先生のアドバイスやよくある質問も参考になりました。」「読み手（母親）の視点も交えたお話が多く、子どもと一緒に読むことで発見や楽しみ方が広がるのではないかと感じました。」といった感想が寄せられた。

赤ちゃんに触れ合い、ご家族と言葉を交わす中で、子ども、絵本、読書、そして図書館という場について、学生とともに私もさまざまな気づきを得る。毎年、このような機会をいただいていることに感謝している。



板橋区立中央図書館との連携事業

「歌って遊ぼう わらべ歌!」「図書館サポーター講座」

家政学部児童学科教授 根 津 知佳子

2025年6月1日（日）および11月8日（土）に、本学と板橋区教育委員会との連携イベント「歌って遊ぼう わらべ歌!」を板橋区立中央図書館にて実施した。両日も含めた2023年度以降の7回の活動で、のべ50名から収集した63種のうちの59曲が、イタリア・ボローニャ市立サラボルサ児童図書館のホームページで公開されている。

この連携事業では、「日本のわらべ歌を収集する」という本来の目的はもちろんのこと、いくつかの副次的な成果をあげることができた。まず、音楽教育学における新たな研究の視座を提示することができた点である。具体的には、記譜ではなく音声データを収集するという新しい方法論の開発を通して、発達段階とわらべ歌（あそび歌）との関係について整理することができた点を挙げることができる。第二に、学生と共に「生きた児童学のフィールド」を創出することができた点である。直接参加できない学生とも、ホームページ等で紹介された活動報告などを介して、子ども達が文化を継承し、新たな文化を創造する姿を共有することができた。そして第三に、4年度にわたる活動を通して、継続して参加していた子どもの成長を参与したスタッフと共有することができた点である。これこそ、高等教育機関による社会連携の醍醐味ではないだろうか。そして、第五として、イタリアのスタッフとの新たな協働がスタートした点を挙げることができる。これらの成果を基盤として、今後も音楽による社会連携や国際交流の在り方を追求する所存である。

さて、3月17日（火）には、「図書館サポーター講座」で「絵本による歌いかけ・語りかけ」と題した講演を行った。特に、言語と音楽が未分化な「原音楽」の段階に焦点を当て、「マザリーズ」の具体的な効果について紹介した。32名の参加者が、読み聞かせる際の「声の質」「語りかけ」の重要性を熱心に確認している様子が印象的であった。図書館の活動を支える方々との交流を通して、文化の拠点である図書館における社会連携の重要性を再認識することができた。



写真1. 『なべなべそこぬけ』



写真2. 図書館サポーター講座

板橋区教育委員会との連携事業

—「中台延命寺所蔵大般若経 附旧経櫃・経箱」有形文化財登録 および「大般若経会」について—

文学部史学科教授 藤 井 雅 子

本連携事業は、本学と板橋区教育委員会と連携協定に基づき、2023年10月から2024年3月までの間に行われた板橋区中台延命寺所蔵の大般若経600巻の調査であり、社会連携教育センターが有志学生を募り、約40名が参加した。すでに調査の内容や成果については、2023年度・2024年度の『社会連携教育センター活動報告書』に記載した通りである。

さて2025年度においては、2025年2月14日（金）付で板橋区有形文化財に登録されたことを受けて、5月21日（水）、中台延命寺の大塚龍雅住職へ文化財登録書の授与が行われた。その場に本学史学科卒業生で板橋区教育委員会生涯学習課文化財係の神子美涼学芸員、本学社会連携教育センター所長である私や事務局も同席させていただいたが、その際、大塚住職より秋ごろに文化財登録を記念して、「大般若経会」を行う予定とのお話をいただいた。

「大般若経会」は、11月6日（木）、中台延命寺本堂において行われ、本学から学生・卒業生および教職員を含む約30名が聴聞をさせていただいた。まず大塚住職より大般若経会に関する説明と、本事業における板橋区と本学の貢献への謝意が述べられた後、神子美涼学芸員より中台延命寺の文化財についての講義があった。そして大般若経会が開催され、大般若経の転読供養が行われた。参加者たちは、住職から一人ずつ頭上において大般若経の転読供養をしていただいた。

なお2026年3月、板橋区教育委員会より『文化財シリーズ第一〇二集 板橋の寺院 寺院所蔵の文化財に見える歴史と文化 真言宗編』が刊行されたが、この中には、中台延命寺の文化財に関する論考とともに、学生らが調査し作成した「中台延命寺大般若経史料目録」が掲載された。また本書の末尾には、調査に参加した学生・卒業生および教職員の名前が協力者として記された。

本事業は、2023年に大塚住職が調査をご快諾いただいたことから始まったが、調査、指定目録作成、板橋区文化財指定の登録、そして「大般若経会」と、文化財に関わる数多くの貴重な体験の機会を与えていただいた。改めて大塚龍雅住職をはじめとする、本事業を支えてくださった板橋区教育委員会および神子美涼学芸員、本学社会連携教育センター教職員に、心より御礼を申し上げたい。



北海道新冠町『レ・コードのまち新冠町』の認知度向上に向けた レ・コード館の有効活用について

人間社会学部現代社会学科准教授 上 田 誠 二

この社会連携事業の基本的な趣旨は、「レ・コードのまち・新冠」（100万枚以上を収蔵）の認知度向上と交流人口の拡大、アナログレコードの活用について、日本女子大ならではの学生目線から政策提言を行うというものであった。重要なことは、今回の政策提言が単に観光振興・地域振興にのみ寄与するのではなく、新冠町において観光事業と教育事業とをつなぎ、町ぐるみで世代を越えて町民ひいては観光客が交流するような、いわば“越境的な地域振興政策”を構想することを最大の目的にしていた点である。やや大げさに言えば、様々な人びとの出会いの場としてのレ・コード館を拠点として、地元民／観光客、高齢者／若年者、日本人／外国人など、各種の出自や属性を越えて、町全体で音楽を介して人的交流が盛んとなり、結果的に新冠町の創生がはかられていくことを究極的なねらいとした。

2026年2月24～26日の現地訪問では、レ・コード館において管理作業体験やレコード制作体験、最新音響設備によるレコード試聴、高齢者音楽療法講座への参加などを通して館の意義を体感した。さらに、新冠町の全体を知るために、馬産地ならではの乗馬体験、アイヌ文化を知るための「ホロシリ生活館」見学、町の自然・歴史・風土を学習するための「郷土資料館」見学を行ったほか、音楽の教育的活用を実感するために町立認定こども園における音楽祭へも参加した。

こうしたフィールドワークを踏まえて、最終日には町長や教育長ほか町の理事者の方々に前にプレゼンを行った。教員及び学生たちによる具体的な提言では、第一に、レコード展示に際してストーリー性をもたせることの重要性が指摘された。たとえば、引揚者の町でもある新冠町に即して望郷と復興の感情をレコード展示によって再現する試みや、アイヌ文化との出会いと交流を音楽に刻まれた共生の記憶として展示する試みなどが提言された。それ以外にも、戦争と平和をテーマとしたレコード展示や、アイドルの誕生と変遷をテーマとした展示の例なども示された。

第二に、グローバルなSNS時代への対応として、AIを活用した楽曲検索、多言語案内、親しみやすいゆるキャラの制作、ショート動画や来館者参加型の投稿企画などが提言され、総じてアクセシビリティ向上の重要性が提起された。

今後も継続的に新冠町と学生たちとの交流を続けていくことで、上述の提言がアップデートできればと思う。



北海道浦河町産夏いちごのブランド力強化に向けた 流通環境改善の提案について

食科学部食科学科准教授 北 澤 裕 明

北海道日高管内にある浦河町では、比較的冷涼な気候を活かした夏採りいちごの生産が行われており、主にケーキなどの菓子類などの需要の高い首都圏に向けて出荷されている。いちごの果実は水分が多く軟弱であるため、輸送中の衝撃や振動といった機械的ストレスによって損傷しやすい。また、損傷することによって腐敗やカビの発生が促進されることもあり、その輸送においては緩衝包装などの損傷防止対策が不可欠である。いうまでもなく長距離となる浦河町から首都圏への輸送においては、損傷防止対策はより精密に行われる必要があると考えられた。

以上の点を踏まえ、浦河町産夏いちごの輸送に適した損傷防止設計の方向性を定めることを目的とし、2025年8月上旬に浦河町内で収穫したいちご2品種を宅配便により目白キャンパスまで輸送する試験を実施し、包装形態の違いが果実の糖度および果肉硬度、重量、外観といった品質の変化に及ぼす影響について調査した。その際、包装容器内に加速度センサーを設置し、輸送中の上下、左右および前後方向の衝撃の発生状況および包装形態ごとの衝撃緩和効果について検証した。また、検証の一部は、研究室内での試験により補完した。

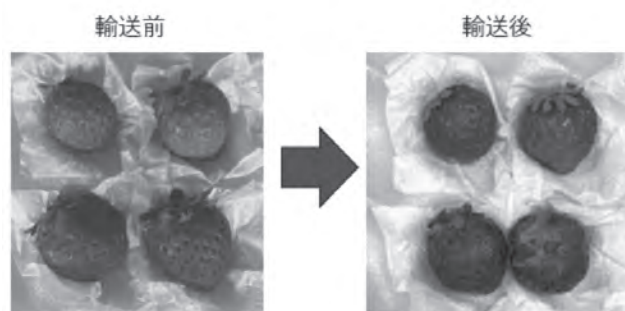
試験の結果、いずれの品種においても品質変化の程度について包装形態の違いによる差はみられなかった。輸送中の衝撃加速度は、上下方向が最も大きかった一方で、スポンジを容器底面に配置した包装形態では、この方向の衝撃に対する減衰効果が確認できた。しかし、全ての包装形態において果実のトレーからの逸脱や損傷の発生が認められた。このことから、輸送中の損傷発生は主として前後・左右、すなわち水平方向の衝撃に起因している可能性が示唆された。

産地で使用されており、今回の輸送試験でも使用したいわゆるホールトレーは水平方向の衝撃および振動による果実の動きを押さえにくい傾向にある。この点を踏まえると、損傷防止のための損傷防止設計は、スポンジのような緩衝材を底面に配置するよりもむしろ、いちごを収納するトレーの上面に緩衝材を配置することなどによって、転がりを抑えることに主眼を置くべきであると結論付けられた。

本試験は、日高町村会および浦河町役場産業課のご支援のもと実施した。また、ひだか東農業協同組合および浦河町内の複数の生産法人の皆様には、夏いちごの流通および生産の現状に関するヒアリングにご協力いただいた。この場を借りて厚く御礼申し上げる。



包装容器内への加速度センサー配置の様子



輸送前後における果実の状態の比較

北海道日高管内（平取町）における 子どもの運動環境に関する調査について

家政学部児童学科准教授 澤 田 美砂子

北海道日高管内の平取町における子どもの運動環境について、認定こども園および認可保育所を訪問し、保育者への聞き取りを中心に調査を行った。

人口約4,200人の平取町には、認定こども園1園と認可保育所3園が設置されているが、保育機能は中心部に集中するのではなく、各地域に分散して配置されている。とりわけ、アイヌ文化継承の拠点として知られる二風谷地区にも認可保育所が設置されており、地域文化を取り入れた保育が展開されている点は大きな特色である。

本調査では、町中心部の認定こども園と二風谷地区の保育所を訪問した。中心部の認定こども園では、十分な広さの保育室と設備を有し、年間を通して園庭や園外を含めた活動が行われている。一方で、近年はヒグマの出没により屋外活動が一定期間制限される場合もあり、状況に応じて屋内での身体活動を取り入れるなどの工夫が図られていた。こうした活動の充実には保育者の配置が重要であり、全国的な課題と同様、人材確保の面で調整が必要であるとの状況を聞き取ることができた。二風谷地区の保育所では、絵本や遊びを通してアイヌ語に触れる機会を設けるなど、地域の文化的要素を取り入れた保育が行われている。また、雨天時にも園外散歩を実施し、冬季にはそり遊びを行うなど、年間を通して自然環境の中で身体を動かす機会が積極的に確保されている。少人数であることから、一人ひとりに応じた丁寧な関わりが可能である一方、集団規模での遊びの展開については工夫が必要とのことであった。

なお、例年スポーツ庁より発表されている全国体力・運動能力、運動習慣等調査について、令和7年度平取町内の小学5年生児童の結果を確認したところ、体育への参加意欲が非常に高い傾向が見られる一方で、体力面では種目によって差が見られる状況が示されていた。平取町においては自然環境や地域文化を活かした地域特有の運動経験の丁寧な積み重ねと、環境条件に応じた活動の工夫の重要性が確認された。

北海道日高管内7町・日高振興局・日高町村会連携活動報告

2021年度に本学と、北海道日高振興局、及び当振興局内の7町（日高町、平取町、新冠町、新ひだか町、浦河町、様似町、えりも町）において包括協定を締結してから、5年目を迎えた2025年度は、昨年度に引き続き各町からお寄せいただいた地域課題についての取り組みを継続して実施した。

●地域連携活動

家政学部児童学科 澤田美砂子准教授 学生7名

日時：2025年9月1日（月）～9月3日（水）

内容：平取町を訪問し、運動遊びイベントを開催

- ・平取町立認定こども園バチラー保育園
- ・二風谷保育所



●地域連携推進事業

- ・浦河町 浦河町産夏いちごの知名度向上に向けた考察
- ・新冠町 『レ・コードのまち新冠町』の認知向上に向けた取り組み
- ・様似町 小児肥満に関する小学生へのアプローチについて（継続）



梶原町における脱キャンパス型実習科目「実践プログラム」 演劇ワークショップについて

国際文化学部国際文化学科教授 木 村 覚

8月に、高知県高岡郡梶原町に赴き、演劇のワークショップを行った。三泊四日、主な会場となったのは、隈研吾氏が改修に尽力された木造の劇場であるゆすはら座である。学生たち11名は、三組に分かれて演劇の創作を行い、最終日に、梶原町の住民の方々をお招きし観劇してもらう形で、成果発表を行った。

ワークショップの講師を務めてくださったのは、俳優の万里紗さんで、彼女は本学の卒業生でもある。テーマは、「演劇創作を通して梶原町という〈異界〉を探検する」とした。都会暮らしの学生たちに、自然も伝統も豊かな梶原を〈異界〉として探ってほしいと考えた。学生たちは、演劇のワークを受け、三人の梶原在住の女性たちにインタビューし、また久保谷地区の森林セラピーロードを散策した。これらの刺激から、学生たちはインスピレーションを受け、想像力を大きく羽ばたかせて、三組がそれぞれ個性的な劇を創作した。

最終日には、吉田町長を含む10名ほどの住民の方々が集まってくださり、一組10-15分ほどの上演を行った。上演後には、住民の方々と学生たちとで感想を語り合う時間が設けられた。

このワークショップを実施するようになって三年がたった。都会を離れ、〈異界〉を訪れ、日常とは異なる場で自分を見つめ直すこの実践は、学生にとって大変密度の濃い学びの経験になっていることを実感している。

※当科目は国際文化学部国際文化学科科目「実践プログラム（国内）」です。



高知県高岡郡梼原町連携活動報告

高知県高岡郡梼原町（ゆすはらちょう）と日本女子大学は2023年4月に「相互協力に関する協定」を締結した。その取り組みの一環として、国際文化学部国際文化学科の脱キャンパス型実習科目「実践プログラム」における研修先としても協力をいただいております、2025年度も高知県唯一の木造芝居小屋である「ゆすはら座」にて演劇ワークショップを実施した。（国際文化学科 木村教授担当）引き続き、継続して交流を行い地域との交流やノウハウの提供などを通して相互に良い影響を与えてきたいと考える



盛岡市連携事業「文京区学生と創るアグリノベーション事業」について

食科学部食科学科教授 藤 井 恵 子

本事業は、岩手県盛岡市と文京区内の6大学が連携し、フィールドワークなどの研究活動を通じて農業資源の掘り起こしと、大学の知見を活かした農業振興を目的とする産学官連携事業である。3年計画で実施されており、本学は2024年度より参画し、本年度は2年目にあたる。初年度には、玉山地域の特産品である雁喰豆（がんくいまめ）に着目し、新たな加工法の検討を行い、力学特性や官能評価に基づいて最適な調製条件を明らかにした。

本年度はこれらの基礎成果を踏まえ、「雁喰豆の商品開発による認知度向上」を目的として、商品化を視野に入れた取り組みを進めた。

2025年9月には玉山地域でフィールドワークを実施し、加工業者やパティシエへの聞き取り調査、「道の駅もりおか渋民」の販売状況の分析を行った。これらをふまえ、健康価値と地域性を活かしつつ、若年層への訴求を意識した商品開発が重要であると判断した。

開発した商品は5点である。1品目は、タピオカのような弾力と豆の素材を活かした豆腐様食品、2品目は、雁喰豆粉を用いたコーンとアイスクリーム、3品目は、自然な甘みともちもちとした食感を活かした焼き菓子、4品目は塩煮した雁喰豆とクリームチーズを合わせた惣菜系ベーグル、5品目は、栄養を保持しつつフリーズドライした雁喰豆のおつまみである。加えて、他大学との共同研究として、地元パン店の商品に適したフィリングも考案した。

2026年2月の成果報告会では、加工特性や商品化に関する具体的な議論が行われ、学生にとって有意義な学びの機会となった。さらに3月には再度現地を訪れ、製品化に向けた具体的な協議を進めた。最終年度となる来年度は、パッケージや価格、販売体制の検討を進め、年度内の商品化を目指す。

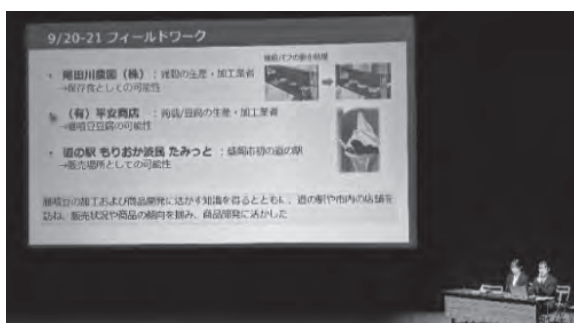
本事業を通じて、学生は主体性や協働性を育み、実践的な学びを深めている。



考案した商品



フィールドワークの様子



成果報告会の様子

岩手県盛岡市連携活動報告

2024年8月、岩手県盛岡市と連携・協力に関する包括協定を締結し、盛岡市が実施している「文京区学生と創るアグリイノベーション事業」に参画した。本学からは盛岡市の特産品「雁喰豆（がんくいまめ）」の新たな商品・加工技術の開発に向けて、前年度より継続した調査研究を行っている。（食料学科 藤井教授担当）今年度は、現地におけるフィールドワークや市場調査を実施したうえで、商品開発を行い、9月の中間報告会（文京区内）、2月の報告会（盛岡市内）にて発表した。この事業は 3 年計画のため、最終年度である次年度は、商品化に向けて研究を継続している。



産官学連携報告

2025年度 AI・データサイエンス、ICTに関する社会連携活動

理学部数物情報科学科教授 長谷川 治 久

1. はじめに

2025年度は、生成AIや大規模言語モデルの社会実装が進展し、教育・研究・産業における実務的活用へと移行した年であった。特に対話型AIは、コンテンツ生成や意思決定支援など幅広い用途における基盤技術となりつつある。このような状況においては、AIの仕組みや限界を理解し適切に活用する力と、倫理的・社会的側面を踏まえた判断力が求められる。また、データサイエンスやICTを社会課題の解決へ結びつける実践力の育成も重要である。以上を背景に本年度も社会連携活動を展開した。

2. JWU社会連携科目

ICTやデータサイエンスを社会課題の解決と価値創出に結びつける力の育成をめざし、JWU社会連携科目として以下の3科目を開講した。

- 「社会におけるICT、データサイエンス活用A」(担当：湯浅且敏)

国立情報学研究所および株式会社ラックと連携しPBLを実施した。データの収集・分析を通じ、AIを活用した解決策の提案を行うとともに、情報セキュリティやデータ活用に関する実務的知識を習得した。

- 「社会におけるICT、データサイエンス活用B」(担当：齊藤典明)

Web技術の基礎を学び、スマートフォンアプリ開発を通じてAPIやデータ処理、ユーザインタフェース設計の理解を深めた。実習中心の授業により、アプリケーション開発の実践力を育成した。

- 「地域・企業と未来を創るクリエイティブ・プロジェクト演習C」(担当：坪井塑太郎)

オープンデータとGISを用いた地域分析に取り組み、課題設定・分析・可視化を行った。また、地域住民との意見交換を実施し、社会への発信と実践的な学びを深めた。

3. Project PLATEAU ブートキャンプ

8月25～27日に「Project PLATEAUブートキャンプ for Women's University Students 2025」を本学とWUSICの共催にて開催した。国土交通省および角川アスキー総合研究所の協力のもと、目白キャンパスJWUラーニング・コモンズかえでにて、PLATEAUを活用した都市課題解決のアイデア創出を目的とするイベントとして実施した。参加者は45名(本学40名)であった。学生実行委員も運営に参画し、3日間のワークショップとアイデアソンを通じて成果発表を行った。表彰においては、最優秀賞、優秀賞、審査員特別賞、オーディエンス賞の各賞を本学学生グループが受賞するなど、本学学生の活躍が顕著であった。

4. むすび

本年度は、生成AIの実務活用の進展を背景に、正課・課外の両面から社会連携活動を展開した。授業やブートキャンプを通じて、学生がデータやICTを用いて課題解決に取り組む実践的な学びの機会を提供できた。今後も社会との接点を意識した教育を推進し、ICTやデータサイエンスを基盤として社会に貢献できる人材育成を進めていきたい。

日本総合住生活株式会社との産学連携について

建築デザイン学部建築デザイン学科教授 片 山 伸 也

日本総合住生活株式会社との社会連携事業である、本学の卒業研究（修了含む）を対象としたコンテスト、JS「住まい・団地・まちづくり」論文・制作賞が2025年度も実施され、2026年3月16日に表彰式を行った。この賞は、日本総合住生活株式会社の御寄附のもと、本学学生の優れた研究成果を褒賞することにより、創造性および自主性を備えた人材の育成を図ることを目的とするもので、住居・建築学はもとより、文学、社会学、福祉学等広く多様な分野からの論文を募集している。

今回で5回目の実施となる同賞には、2025年12月1日から2026年2月15日の募集期間に複数の学部学科から15論題の応募があった。今年度の応募は全て学部生で、（その点が昨年度からの応募数減の要因と考えられる。）また論文が9編で制作が6作品であった。審査には日本総合住生活株式会社の内田寛常務取締役の他、今市涼子理事長、篠原聡子学長、金沢創副学長、佐藤克志建築デザイン学部長があたられた。

最優秀賞には松前美祝（住居学科4年：卒業論文）「ひょうご復興コレクティブハウジングの空間利用と運営実態 ―入居開始から約27年後の評価―」が選定された他、産学連携賞には安田栞（住居学科4年：卒業制作）「川辺の市場ハウジング ―暮らす 商う 繋がる―」が、社会連携賞には藤原すみれ（住居学科4年：卒業論文）「空間の連続・分節が保育活動に及ぼす影響 ―こども・保育者・保護者の動きに着目して―」がそれぞれ選定された。その他、優秀賞（2題）、特別賞（2題）、奨励賞（3題）の表彰があった。

応募作はいずれも優秀で優劣つけ難く審査は困難であったが、各審査員の採点を集計し、上位の作品についてテーマ性を考慮して各賞を決定した。



株式会社クボタ筑波工場における 健康な食事の提案と学術活動について

食科学部栄養学科教授 松 月 弘 恵

栄養学科は2022年度に株式会社クボタ筑波工場と「メニュー開発契約」を締結し、本年度で4年目を迎えた。工場内の社員食堂では、健康的な食事である「スマートミール[®]」（工場では「つくメシ」と呼称）の認証を取得しており、年2回の健康イベント「日本女子大Week」におけるメニュー提供と、健康・栄養に関する情報動画の配信を継続している。また、約3,000名の従業員を対象にした「昼食と健康に関する調査」も継続的に実施し、企業と連携した学術活動を進めてきた。

2025年度の「日本女子大Week」は、9月15日から19日（第12弾）と、3月23日から27日（第14弾）に開催された。第1食堂・第2食堂を合わせ、1日あたり200～300食を提供し、いずれも短時間で完売した。アンケートの回収率は85%以上、その内90%以上の利用者が「おいしい」と回答し、高い評価を得た。なお、第13弾は第12弾のメニューを再提供する形で実施した。これまでの「つくメシ」は、「主食・主菜・副菜」をそろえた定食スタイルが中心であったが、過去3年間の食堂全体の食数分析により、丼物や中華麺といった定食以外のメニューにも一定の需要があることが分かった。そこで今年度は、スマートミール[®]の栄養基準に適合した丼料理「つく丼」と中華麺「つく麺」を新たに提案した。

また学術活動としては、第33回日本健康教育学会学術大会のラウンドテーブルにおいて、松月が「健康な食事の普及を目指した産学連携の成果と課題」、山下日菜子が「社員食堂を利用する肥満男性従業員の生体指標の変化と食事選択」について発表した。さらに、健康管理室のスタッフも第98回産業衛生学会にて発表を行い、産学連携の成果を学術分野にも広げることができた。これらの成果は、安全衛生委員会において企業経営者や労働組合幹部にも報告され、健康的な食事環境づくりを進めるうえでの強い支援につながった。

本企業との産学連携は4年間の契約期間をもって終了するが、これまでに卒業研究として関わった学生・大学院生は25名、開発したメニューは50種類以上にのぼり、レシピ集も3冊作成した。本取り組みは、企業と大学双方にとって大きな成果と意義のあるものであった。

JWU子育てサイエンス・ラボ／子育てサイエンス・カフェ

JWU子育てサイエンス・ラボ活動報告

人間社会学部心理学科教授 麦谷綾子

2025年度、JWU 子育てサイエンス・ラボでは、計3回のオンライン「子育てサイエンス・カフェ」を開催した（表1参照）。さらに、3月には、昨年度に続いて2回目となる対面でのカフェを新泉山館にて開催した。本学が文京区指定の「妊産婦・乳児救護所」となっていることを踏まえ、地域の親子および防災士の有資格者を招き、文京区防災危機管理課との協力のもと、備蓄物資の実物展示や地下1階の備蓄倉庫の見学、グループトークでの交流などを行い、実りの多い場となった。

地域への情報発信のコアとなるニューズレター〈ゆりのき〉は5回、メールマガジンは14回、発刊を重ねることができた。〈ゆりのき〉では、今年度から新たに教員インタビューリレーの掲載を開始し、本学の多様な研究活動を内外にアピールする機会を創出した（表2）。さらに、初刊からNo.13までを収録した「ゆりのきアーカイブズVol. 1（2023年発刊）」に続き、No.14～No.24を収録した「ゆりのきアーカイブズVol. 2」を発刊した。また、ほぼ月1回のペースで発刊しているメールマガジンの「子育てtopic」には、学内の多くの教員から寄稿をいただいた（表3）。

2025年度の大きな改革として、会員制度の見直しを行い、ラボの発信する情報の配信対象である「子育て情報会員」と、学内の研究調査に協力する「ラボ協力会員」の2種類の会員制度を一本化した。来年度は、新たな会員制度にもとづいて学内外との連携を図り、地域支援や交流、情報発信に取り組むとともに、総合大学として、また「サイエンス・ラボ」という名称にふさわしい学術研究面での一層の活動の充実を図りたい。

表1. 2025年度開催「子育てサイエンス・カフェ」

開催月	講演タイトル	講演者	
5月	歌ってつながる・歌ってひろがる (オンライン)	児童学科 根津 知佳子教授	
7月	水の事故を防ぐ —カヌーから学ぶ安全管理／危機管理— (オンライン)	現代社会学科 大沼 義彦教授	

11月	大切にしたい家族の会話 フィンランド発「対話実践」に学ぶ、 コミュニケーションのヒント (オンライン)	心理学科 青木 みのり教授	
3月	みんなの避難所教室 『妊産婦・乳児救護所』の現場を見て、 いざというときの準備を始めよう (対面)	建築デザイン学科 平田 京子教授	

表2. ニュースレター「ゆりのき」教員インタビュー

Vol.	回答者	所属学科
1	麦谷 綾子 教授	心理
2	安藤 朗子 教授	児童
3	塩崎 尚美 教授	心理
4	平田 京子 教授	建築デザイン
5	澁谷 正俊 准教授	化学生命科



表3. メールマガジン「子育てtopic」

No.	タイトル	執筆者	所属学科
30	アンダンテとフェルマータ	根津 知佳子 教授	児童
31	子どもの体力を考える ―「体力」とは？―	大沼 義彦 教授	現代社会
32	チャイルド・レジスタンス包装 マイナスの利便性で子どもたちを守る	北澤 裕明 准教授	食科
33	英語学習をこどもの日常に取り入れてみよう！	土屋 智子 准教授	英文
34	日本古来の対話の工夫	青木 みのり 教授	心理
35	世代間交流を進めるために	黒岩 亮子 教授	社会福祉
36	インフルエンザのお薬、使うベストタイミングは？	平田 倫生 教授	児童
37	お子さんを守る防災、対策は進んでいますか？点検してみましょう	平田 京子 教授	建築デザイン
38	健康を再考する ―目標としての健康から手段としての健康へ―	横井 孝志 教授	被服

子育てサイエンス・カフェ アンケート

イベント名：＜第23回 子育てサイエンス・カフェ＞

歌ってつながる・歌ってひろがる

日時：2025年5月24日（土）10:30～12:00

場所：オンライン開催

参加人数：40名

アンケート：32件（回収率：80%）

＜Q1＞今回のイベントをどこで知りましたか？（複数回答可）

本学ホームページ	4
JWU子育てサイエンス・ラボ メールマガジン	10
JWU子育てサイエンス・ラボ ニュースレター「ゆりのき」	3
本学SNS（X（旧Twitter）・Instagram）	0
JASMINE-Navi（学内者のみ）	3
学内掲示	6
本学以外のWebやメールマガジン	1
チラシ	0
日本女子大学附属豊明幼稚園・小学校からのお知らせ	6
新聞等の媒体	0
その他	5

その他：学生からの紹介、知人からの紹介、講師の先生からのご案内

＜Q2＞今回のイベントにどのようなご興味があり参加されましたか？

- ・毎日の子育てに歌を・・・って、とっても大切なこと。携帯で音楽をかけて、そのまま・・・じゃ寂しいですね。親子で、散歩しながら、歌を歌う姿がほほえましい。上手に歌えることが大切なのか、鼻歌交じりであそぶ子どもの姿を見守るか、興味しんしんでした。
- ・うたうこと、音楽療法について
- ・こどもの歌うという行為の魅力に興味があったので。
- ・長女が元々歌が好きということと、次女が0歳10ヶ月になり、音楽に合わせて身体を動かすので、育児と歌の繋がりを学ぼうと思いました。
- ・子育てについて
- ・音楽教育の再定義や地域連携実践。
- ・子どもに童謡を聞かせることの重要性を感じ、娘が0歳の時からこれまで毎日実践してきております。そのため、子育てと歌を関連づけた今回の講座に興味を感じたので参加させて頂きました。
- ・歌うことが子育てにおいてどのような効果をもたらすのか知りたかった。
- ・根津先生が板橋区と行っている事業に興味があったため。
- ・子育てに関する知識を得られると思ったので。
- ・うたとわらべうた
- ・私の甥っ子たちを見ていて、子どもなのに歌っているところを見たことがない、と思っていました。子どもや大人が歌うとはどのようなことなのか、子守歌やわらべ歌は懐かしと思いますが本当はどのようなものなのか、学びたかったため参加させていただきました。

- ・子どもと音楽の関係性
- ・歌が子どもに与える影響について。
- ・歌による赤ちゃんとの関わりが言葉掛けなどその他の関わりとどの様に違うのか、どの様な効果が見られるのかに興味がありました。
- ・子どもの発達における音楽や歌というのは非常に重要なものだと考えており、実際私もミュージカルを習ったりしてきて、常に歌や音楽と一緒に育ってきたため、子供と音楽の関わりや影響というものに興味があったため。
- ・音楽に関心があり、音や歌と子どもの関係に興味があったため、参加しました。
- ・うたうというテーマに興味がありました。
- ・子育て中であることと、もともと音楽に興味があったため、参加しました。
- ・音楽と身体の動き て遊び、揺らし遊び お絵描き歌 音楽が身体を動かすこと、共鳴について
- ・子どもと歌の関係
- ・根津先生のお話はすべて聞きたいということと、我が家に乳幼児がいるということ。
- ・子どもの健やかな成長
- ・子育てにおいて、あまり歌うことが少なかったような気がしたので。
- ・根津先生のお話ということで、興味があり受講しました。
- ・子育てにおける歌の効果
- ・根津先生の音楽に関することに興味を持った
- ・現在関わっている施設の活動でアップテンポな曲やデジタルな音源で歌うことが多く、改めて歌うことやわらべうたの可能性を考えられたらたらい参加させていただきました。
- ・音楽療法実践に興味がありました。
- ・子供の発達と歌の関係
- ・歌うことに関心があったから。
- ・子育てにおける「わらべうた」について学びたかったので参加させていただきました。

※原文ママ

< Q 3 > 今回の講座にどの程度満足いただけましたか。

大変満足	23
やや満足	7
普通	2
やや不満	0
不満	0

< Q 4 > Q 3 の回答の理由をお聞かせください。

- ・解っているけど、なかなか時間がなくて・・・が今の子育て事情でしょうか？忘れていました、わらべ歌、子どもは大きな声で、元気よく・・・がいいなあ～。
- ・先生方のお話が非常に興味深いお話ばかりで、久しぶりの講義に、学生時代を思い出しました。
- ・知識を広げることができました
- ・材料の豊富さや考察のふかさ。
- ・「うたう」ことに関し専門的にご講義頂き、とても勉強になりました。どうもありがとうございました。
- ・動画などを用いて音楽による効果などを学ぶことが出来たため。
- ・わらべうたは子供が子供のために作ったとは知らずに大人になっていたことに驚きました。以外にも知らなかったです。

- ・科学的根拠に基づいた話を聞いてよかった。未就学児の実践をしているので、とても勉強になりました。ありがとうございます。
- ・こもりうたやわらべうたについて、あまり考えたことがなかったのですが、遊ぶことや学ぶこと、情動調律の概念とつなげて考えることができ、関心を持って講座を聴くことができました。また、映像について、日本や海外の活動の様子がよくわかり、子どもも大人も、音や歌でつながりかけがえのない時間を共有していることがわかりました。「うたう」ということの豊かさ、奥深さにあたためて気づかされました。また、「うたわない子」「うたえない子」ということにも、考えを広げることが必要だと思いました。ホワイトハンドコーラス（手歌）という音楽の方法は、とても良い取り組みだと思いました。
- ・広い範囲にわたってご教示いただき、とても勉強になりました。ありがとうございました。音楽を教えるということが西洋音楽を教えることにつながりがちであることに違和感を覚えていたので、原音楽を大切にすることの意義深さを強く感じました。
- ・ボランティア活動での事例等を踏まえて具体的なお話を聞くことができたため。
- ・実際に行われている海外の取り組みが紹介され、とても興味深かったです。
- ・興味をもっていた内容について、お聞きすることができたため、とても有意義な時間となりました。
- ・子どもへの関わり方考え方に整理でき参考になりました。
- ・一つ一つはとても興味深い内容でしたが、盛沢山すぎて理解が追い付いていきませんでした。
- ・説明と事例（動画等）ともにありわかりやすかった。
- ・今後たくさん勉強したいという気持ちになったことと、ヒントをたくさんいただいたこと。
- ・もう少し子育ての実践に寄ったお話を想像していましたが、学術的な内容で、それはそれで貴重なお話をうかがうことができました。
- ・家庭の都合で後半しかお話を聞くことができませんでした。申し訳ありません。
- ・もう少し実践方法を教えて欲しかった
- ・とても勉強になった
- ・様々な研究について、特に連携事例を知ることができたこと。
- ・実際に歌っている動画などを沢山公開して頂いたので、自身で実践する際のイメージが掴みやすかった
- ・動画や音声とともに講義いただき、理解しやすかったのですが、時間内では足りない奥深さだと思いました。続編があれば参加したと思いました。

※原文ママ

<Q5>オンラインで開催した本日の子育てサイエンス・カフェで使用したデバイスを教えてください。

PC	21
スマートフォン	10
タブレット	1
その他	0

<Q6>今回のイベントについて自由なご意見・ご感想をお書きください。

- ・歌うこと、わらべ歌遊び、少し忘れていたことに気づかせていただきました。
- ・昨晚、通信教育のサイト見ていて、たまたまこのイベントを見つけました。子育ては、ほぼ終わり(下の子は大学生)で、今は、認知症の母が、歌が好きで、これから、何かしてあげたいなと思っているところでした。子供達は、幼児期シュタイナー幼稚園に通い、優しい音色のグロッケンや、ライアー、手遊び歌など、すべて音、声、があったのを思い出しました。これから幼児教育や、音楽療法、わらべうたこれから、少しずつ勉強してみようと思いました。参加させていただき、ありがとうございました。

- ・素晴らしかったです
- ・良いわらべうたは「心地よい」うたであるとのことでしたが、このことに関連して、赤ちゃんに歌を聞かせる時は、上手くなくても母親の直接の声（歌）を聞かせることが大切と言われることにつながっているのかな、と感じました。
- ・カメラオフで気軽に参加できるのが良かったです。
- ・今日はありがとうございました。わらべうたや手遊び歌など、懐かしく思い出しました。子どもが男の子だったので、あまりこうした遊びをしなかったことを後悔しました。
- ・意外にも知らない子供の特徴を先生のご専門から講義頂くといいなと思います。
- ・勉強になりありがたかったです。
- ・とても広い範囲にわたってのお話しでしたので、今後何回かに分けてポイントを絞って勉強を深められる機会があるといいなと思いました。
- ・興味深いお話をありがとうございました。お話を聞いて、音楽は、それぞれの人に寄り添うものなのだと改めて思いました。子どもにとって、歌をうたうことは、歌うという行為だけでなく、身振りや手振り、表情、声色など、さまざまなものを楽しんでいるのだと感じました。イタリアの子育て教室の動画や、わらべうたを歌う子どもたちの音声などから、実際の様子を感じ取ることができ、音楽の効果は無限に広がっていくように思いました。今回のイベントは、興味のあるテーマであったため、初めて子育てサイエンスカフェに参加しましたが、とても楽しく、勉強になりました。また、次回以降も参加してみたいと思いました。
- ・自分の興味のある分野に参考になり広がりました。
- ・音楽を学問として授業受けたのは初めてでしたが、とても楽しく興味深かったです。今子育て中なので実践してみようと思いました。
- ・とても楽しく拝聴しました。クラシックは音の繰り返しが心を静めるので、入眠時に良いといわれています。特にモーツァルトといわれていますが理由をお聞きしたかった。
- ・学校ではあまり歌うことに興味無だった（現在は音楽を聴くことには興味）の私でも、事例で挙げられていたわらべ歌について、だいたい聞き覚えがあり、なんとなく口ずさむことができそうであり、驚きがあった。
- ・演習なども加えて、もっと長い時間でもよいように感じました。
- ・赤ちゃんをあやしたり、相手をする時に母親が必死なのは万国共通なんだと、イタリアの映像から感じました。
- ・また参加します
- ・非常に貴重な学びとなりました。ありがとうございました。
- ・続編をお願いします

※原文ママ

< Q 7 > 社会連携教育センターでは、今後もいろいろな企画をしていく予定です。どのような企画があるとよいか、ご自由にご記入ください。

- ・海外との連携にも展開されているお話を伺う中、自身の幼少期のブラジル生活で耳にした子供向けの曲を思い出し、もしも機会があれば、国ごとの童謡や子供向け音楽の特徴などに関する研究なども伺いたく思いました。
- ・児童福祉において、過去のトラウマを克服した経験や障害分野においての生きづらさなどの当事者の方の声を聴ける企画があれば嬉しいです。過去に開催されていたらすみません。
- ・子供の安全を脅かす事件事故が発生していますので、安全対策の講義がよろしいかと思います。
- ・子どもの遊びや知育、健康に関する話題。
- ・現在という状況下での保育士の役割。
- ・今回の続編を聴きたいです。
- ・食

- ・音楽や発達についての内容。
- ・講義内容を、子供たちを交えて対面で実践する場があったら良いかと思いました。

※原文ママ

<Q8>イベントに参加しやすい曜日・時間帯について、ご自由にご記入ください。

(例：土曜13時～、日曜午前中 等) (複数回答可)

その他	2
日曜午後	6
日曜午前	7
土曜午後	9
土曜午前	22
平日夜間	5
平日午後	1

その他：祝日などの休日・土日の19時以降

<Q9>よろしければ、あなたのご所属などについて当てはまるものを選択してください。

現在子育て中の方	5
教育関係の仕事に携わっている方（幼稚園・保育園）	1
教育関係の仕事に携わっている方（小学校・その他）	1
自治体のご関係者	1
近隣にお住まいの方	2
日本女子大学附属豊明幼稚園・小学校の保護者	6
本学学生・大学院生	8
本学卒業生	6
本学教職員	1
その他	0

イベント名：<第24回 子育てサイエンス・カフェ>

水の事故を防ぐーカヌーから学ぶ安全管理／危機管理ー

日時：2025年7月19日（土）10:30～12:00

場所：オンライン開催

参加人数：20名

アンケート：13件（回収率：65%）

< Q 1 > 今回のイベントをどこで知りましたか？ (複数回答可)

本学ホームページ	2
JWU子育てサイエンス・ラボ メールマガジン	8
JWU子育てサイエンス・ラボ ニュースレター「ゆりのき」	1
本学SNS (X (旧Twitter)・Instagram)	0
JASMINE-Navi (学内者のみ)	0
学内掲示	2
本学以外のWebやメールマガジン	0
チラシ	0
日本女子大学附属豊明幼稚園・小学校からのお知らせ	0
日本女子大学附属中学校からのお知らせ	2
新聞等の媒体	0
その他	2

その他：関係者からの紹介

< Q 2 > 今回のイベントにどのようなご興味があり参加されましたか？

- ・安全に川で子どもと遊ぶにはどうすべきか知りたかったため。
- ・時期的に興味あったので。
- ・保育補助の仕事をしているため
- ・仲間と主宰している親子の音楽グループで、音楽と絵本について、子育てと保育についてのことをまとめてみたい、と話しているので、皆でいろいろ勉強中です。
- ・水難事故を防ぐための安全管理や危機管理について、理解したいと思い参加しました。
- ・自身が子連れで水辺に行く機会が多く、助けることがあれば逆に助けられることがあるかもしれないので、救助にまつわる考え方や流れを知っておかないといけないと思った。
- ・水難事故に対する意識を高めたいため
- ・毎年夏にはいたましい水の事故のニュースを聞くので
- ・水の事故防止、そして大沼先生のご研究に興味があり参加しました。
- ・子供のケガを未然に防ぐ考え方の参考にさせて頂ければと思い、参加致しました。
- ・年々、水難事故のニュースを耳にすることが増え、自分は大丈夫、関係ないということではないように感じていたので、自分が被害者にならないため、もし救助に当たる場面に遭遇した時の対応を聞かせてもらえと思い参加しました。
- ・いざという時の水難事故、どう対応すべきか具体的に知りたく思いました。
- ・夏休み中に海辺でのキャンプを予定していることから、危機管理や安全管理を確認する機会になればと思いました。大変貴重な学びとなりました。ありがとうございました。

※原文ママ

< Q 3 > 今回の講座にどの程度満足いただけましたか。

大変満足	10
やや満足	2
普通	1
やや不満	0
不満	0

<Q4>Q3の回答の理由をお聞かせください。

- ・実際の指導の写真が多かったこと。
- ・具溺れた子供をひきあげた後、医療従事者につなぐまでの対処を具体的に教えていただけたらなおよかったです。水を飲んでしまっているかの判断、吐かせる方法、心臓マッサージなど。
- ・講座のお知らせを見たときにわかっていましたが、カヌーについてとあったので私の関わっている幼児についてとは少し違うかも、と思っていました。ただ小学生についても参考になるお話がたくさん聞けたのでありがたかったです。
- ・レスキューの3原則やレスキュー方法の選択、安全管理と危機管理について、わかりやすく解説してくださったため。普段から、体力をつけたり、食料を確保することが大事ということも、納得しました。
- ・「安全管理」と「危機管理」違いを意識できた。最初に声掛けが重要。といったことに気が付けた。
- ・普段あまり気にしないトピックでしたので、参考になりました。
- ・むやみに怖がるのではなく、安全を理解し備えておけば楽しく遊べると思えたので。
- ・普段知ることができない、安全管理と危機管理の大切さを具体例を交えて、丁寧にわかりやすく教えていただきました。
- ・川の危険と安全な区域の見分け方や、救急の到着時間のことなどの知識を得られたことで川、海、プール、その他陸地でもまずは安全と危険な場所の確認をしなくてはならないことを再認識できたこと。万が一の時の初動は救助は一人では成立しづらい、周知して救助の集団を作ることを最初にやると認識できたこと。
- ・カヌーの例をたとえ、レスキュー方法を具体的に知ることができました。事前に安全管理を怠らない事、日頃の生活でもそうした目を養っておけるよう、心しておかねばと気づきました。
- ・カヌーの話が核となっておりましたが、個人的には、安全、安心な活動を展開するための心得を再確認させていただくことができました。

※原文ママ

<Q5>オンラインで開催した本日の子育てサイエンス・カフェで使用したデバイスを教えてください。

PC	10
スマートフォン	3
タブレット	0
その他	0

<Q6>今回のイベントについて自由なご意見・ご感想をお書きください。

- ・川や海にはめったに行かず、泳げる深さまで入りませんが、今回はもしその場に遭遇したらと考えると知っておかなければと考えさせられました。レスキューしないのが一番安全という言葉も印象的でした。事故をまず起こさないこと、下見を知ることを実感しました。
- ・スマホだったので、データのグラフなど細かいものが見えなかった。できれば資料を頂きたいです。
- ・貴重なお話をありがとうございました。自身が水難に遭い、助けられる側になる時の心構えも重要だと思いました。
- ・気軽に参加できるZoom形式でうれしかったです。
- ・非常に豊かなご経験からの実践的な知識を教えていただき貴重な時間でした。
- ・大沼先生、ありがとうございました。関係者のお疲れ様でございました。
- ・クイズや提示されたPPT画面に参加者が直接書き込む、などの視聴者参加型の講義は、初めての体験で楽しく興味深かったです。
- ・専門家の先生のお話を聞き、少しでも知識を習得できたことにより、いざという時の判断力が増すことだと思います。引続き、イベントの開催をいただきたく思います。

- ・カヌーの危険箇所の○印は、日頃利用したことがなかったため焦りましたが、ペンマークが出たため試めすことができました。少し図表が小さく老眼？の眼には判別しづらかったのですが、参加型になり良かったです。
- ・今回のお話は、すべての活動に共通している重要なテーマだったと思います。ありがとうございました。

※原文ママ

<Q7>社会連携教育センターでは、今後もいろいろな企画をしていく予定です。どのような企画があるとよいか、ご自由にご記入ください。

- ・季節ごとに合う、かつ時事的テーマがいいと思います。
- ・反抗期との向き合い方。
- ・思春期の子供との接し方。子供のモチベーションを上げる会話のしかた。
- ・子供のスマホ等のかかわり方、どうつきあっていけば良いのか、気になります。

※原文ママ

<Q8>イベントに参加しやすい曜日・時間帯について、ご自由にご記入ください。

(例：土曜13時～、日曜午前中 等) (複数回答可)

その他	0
日曜午後	0
日曜午前	3
土曜午後	3
土曜午前	13
平日夜間	0
平日午後	2

<Q9>よろしければ、あなたのご所属などについて当てはまるものを選択してください。

現在子育て中の方	1
教育関係の仕事に携わっている方 (幼稚園・保育園)	1
教育関係の仕事に携わっている方 (小学校・その他)	0
自治体のご関係者	0
近隣にお住まいの方	1
本学学生・大学院生	1
本学教職員	3
日本女子大学附属豊明幼稚園・小学校の保護者	1
日本女子大学附属中学校の保護者	1
本学卒業生	3
その他	1

その他：ピアノ、リトミック講師

イベント名：<第25回 子育てサイエンス・カフェ>

大切にしたい家族の会話 フィンランド発「対話実践」に学ぶ、コミュニケーションのヒント

日時：2025年11月21日(土) 10:30～12:00

場所：オンライン開催

参加人数：47名

アンケート：30件 (回収率：64%)

< Q 1 > 今回のイベントをどこで知りましたか？ (複数回答可)

本学ホームページ	3
JWU子育てサイエンス・ラボ メールマガジン	9
JWU子育てサイエンス・ラボ ニュースレター「ゆりのき」	2
本学SNS (X (旧twitter)・Instagram)	0
JASMINE-Navi (学内者のみ)	3
学内掲示	2
本学以外のWebやメールマガジン	0
チラシ	4
日本女子大学附属豊明幼稚園・小学校からのお知らせ	3
日本女子大学附属中学校からのお知らせ	8
新聞等の媒体	0
その他	0

チラシ：文京区

< Q 2 > 今回のイベントにどのようなご興味があり参加されましたか？

- ・ 家族間の対話の参考になればと思い、参加させて頂きました。
- ・ 対話について、専門的に学びたいと考えました。
- ・ 家庭内で日々葛藤することがあり、対話でのコミュニケーションに興味があったため
- ・ 病院ソーシャルワーカーをしています。心理の先生から話をきけるとのこと、受講しました
- ・ 子どもとの接し方について
- ・ 家族という限られた輪の中で、意外と難しい対話についてとのことで興味がありました。
- ・ 子育てサイエンス・カフェの雰囲気を知りたくて。
- ・ 職場や、家庭で話をするときに参考にできることがあればと思い参加しました。
- ・ 家族内（親子間）のコミュニケーションについて課題があると日ごろから感じているので、ご講演から何か示唆を得られたらと思い参加しました。
- ・ 親子の対話をどのように行なって行くのか、子どもがどのようにしたら話しやすくなるかを学びたかった。
- ・ 家族との会話を改善したいと思っていたので。
- ・ 娘が付属幼稚園でお世話になっております。最近は大分お話しが上手になってきたところで、毎日の生活の中で親としてどのように対話していけばよいのか漠然とした不安があったので、お知らせをいただき興味を持ちました。
- ・ 家族の対話のあり方に興味があり
- ・ 日常的に関係あるから。社会人でも職場の上司と部下の関係。
- ・ 対話の仕方について、聞いたみようと思いました。
- ・ 家族とコミュニケーションについてのお話をお聞きできればと思い、参加しました。
- ・ 対話という言葉に惹かれました。
- ・ 子どもとのコミュニケーションをよくしたいなあ、と思って参加しました。
- ・ 子どもとの対話に悩んでいるので知りたかった
- ・ 家族間の会話の難しさ。家族の中でも遠慮があり、ますます会話が減っているのでその打開策へのヒントがあればと思いまして参加しました。
- ・ 家族との対話に活かせる内容が学べると思い参加しました。
- ・ 子どもが中高生となり、表面的な会話が多くなりがちで、きちんと向き合えていない気がしていたので、家庭での対話を考える良い機会になるのではと興味を持ちました。
- ・ 子育ての参考にしたいと思ったから

- ・家族との対話
- ・感情的にならずに子どもの話を聞く姿勢
- ・子どもも社会人になり、家には夫婦のみとなって、家族の構造が変わってしまい、夫の一方的な会話を受けるばかりになってきてしまいました（私は話したいが、こちらの話は聞いてくれない）。そんな中、離れている息子との短い時間でのより良い会話、夫とのお互いが満足の行く会話のヒントがあればと参加させていただきました。
- ・中高生の子供がおり、まさに中高生との意思疎通は難しく、また大切にしたいと思っていたので。
- ・対話において必要な心構え
- ・家族が抱える問題にどのような視点から支援されるのか興味がありました。
- ・家族の対話の参考にといい参加しました

※原文ママ

< Q 3 > 今回の講座にどの程度満足いただけましたか。

大変満足	23
やや満足	7
普通	0
やや不満	0
不満	0

< Q 4 > Q 3.の回答の理由をお聞かせください。

- ・相手のことを理解することが難しくても、理解しようと歩み寄る姿勢が大切であるという言葉に勇気づけられました。
- ・「対話」と「会話」という日常的に使っている用語について、専門的な立場から大変わかりやすく説明していただき感謝しています。多声性ということについて、さらに深く知りたいと思いました。
- ・対話のキャッチボールが刺さってしまうことがある、その時の回避方法について実践形式で確認することができ、専門家の方でも同じような年代の子との悩みを持つことがあると知り、その解決していく糸口を見ることができて良かった。
- ・話すときに意識し、よりいいコミュ力をも身につけたいと思えたから。
- ・今までにない考えを知ることができた。
- ・今まで自分が意識していたことは確信になりましたし、新しい工夫を知ることもできました。
- ・専門的な視点からのヒントをいただくことができたため。
- ・内容はとても勉強になりました。あとは自分がどのように実践して行くかだと思うのですが、うまくできるかなという自信がありません。
- ・先生が噛み砕いてお話くださり、具体的な動画もあったので内容が分かりやすかったです。
- ・オープンダイアログをより身近に感じられる内容で、理解が深まりました。大変興味深かったです。
- ・家族のことは真剣に考えることはなかったので、あらためて気づく機会になりました。
- ・スムーズな対話の仕方や、相手のことをもっとよく知るためのテクニック（手順）などを教えていただいて、それもすぐ実践できそうな内容だったので大満足です。ありがとうございます。
- ・家の中の話題ではなく、映画や絵本等の感想から入っていくこともいいという点です。
- ・参考映像を見ながら、オープンダイアログについて知ることができ、良かったです。
- ・他声性という概念を知り、調和を目指さなくていいということ、自分自身が多声性を携えているということを認識できました。対話の具体的な工夫も参考にさせていただきたいと思います。
- ・議題がないとできないのか、日常でどうとりくむのか、定期的にやるものか、など様々な疑問点を動画や説明で

解消できたことや、とにかく実践イメージが湧いたため

- ・家族間で実践してみようと思うことがありました。先生方「お手元の資料」と何度かおっしゃっていましたが、事前に配布されたものやダウンロードできるものがあったのでしょうか？私の手元にはなかったため、メモを取るのが忙しく、お話を聞き逃したところがあり、その点は勿体なかったと思います。
- ・最近、夫、息子とも、向き合って会話することをしていなかったもので、今回の講演を機に、機会を作ってみたいと思いました。ありがとうございました。
- ・言葉をお盆に置く、という表現に新たな発見がありました。考えすぎない、反省しない、というお言葉もありがたかったです。
- ・オープンダイアログの基本思想とマナーやスキルとのつながりが理解でき、家庭内で普段使いする感覚を体験させていただきました。
- ・オープンダイアログ、トーキングサークルなど、初めて聞き、学べて、家庭だけでなく仕事でも参考にしたいと思いました。

※原文ママ

<Q5>オンラインで開催した本日の子育てサイエンス・カフェで使用したデバイスを教えてください。

PC	18
スマートフォン	9
タブレット	3
その他	0

<Q6>今回のイベントについて自由なご意見・ご感想をお書きください。

- ・動画の中で親子の対話する様子を見ることができ、とても参考になりました。実際にどのようなテーマで対話を進めたら良いか悩んでおりましたので、その時の悩みであったり、時には映画やスポーツ等のソフトな話題も取り入れたいと思います。また必ずしも意見が一致しなくても良い、違う考えを持っていて良いという安心できる空間が素晴らしいと感じました。大変貴重なお話を共有して下さりありがとうございました。
- ・まさに悩んでいること、その、解決の糸口（アドバイス）になり得る内容を教えていただくことができ、大変内容の濃い講義を聞くことができました。女の子、男の子、全く性格の異なる2人の子育てをしていて日々葛藤も多いのですが、対話をお盆の上に置いていくようなイメージ、というのが今後とても役に立ちそうな気がしました。ありがとうございました。
- ・途中退出で失礼いたします
- ・子どもに意見をするときには、当然子どもにとって都合が悪い状況で、そんな中で反発が起こるのは、子どもが安全と感じていないということが気になり、我が家の子どもの心理的安全を考えたいと思います。話さなくてもいい。お盆に乗せる。使っていこうと思います。
- ・普段、伺う機会がないテーマについて、触れることができ、興味深く拝聴いたしました。
- ・今日はありがとうございました。今回は参加できる時間帯で良かったのですが、そうでないときにアーカイブが見られると大変ありがたく思います。
- ・zoomで参加しやすかったです。先生方の温かい雰囲気がとても良かったです。ありがとうございました。
- ・とても学びになりました。ありがとうございます。
- ・本日はありがとうございました。「お盆の上に載せる感覚」は子どもに対しても、主人に対しても、早速取り入れてみます。家族だけでなく、外で普段のコミュニケーションにも役立ちそうです。今後は対話で得られる安心感を大切に、矢印を意識した対話を目指したいです。
- ・私は社会人ですが、人手不足で大変なので上司も余裕なくかなりパワハラモラハラ気味の発言をします。対話の

大切さを今回改めて知り、否定発言をしない平等に聞く方針にしていきたいと思いました。

- ・多声性を吸収する「おぼん」の視点とイメージが得られ、とても分かりやすかったです。
- ・パワーポイントがわかりやすく、動画も参考になりました。
- ・自分は知識や能力として持っていない分野だったり、参加したら成長できそうだな、と思った講座にまた参加したいと思っています。
- ・相手の気持ちをテーブルに載せて聴くことを心掛けたいと思います。
- ・特に多声性について意識することが印象に残りました。
- ・オープニングダイアログは知識としては知っていてもイメージが持たずにいましたがとてもよくわかりました。職場ではまさに実践していることだとも思い、あらたな強みを見つけることもできました。公私共に勉強させていただきました！ありがとうございました！
- ・Zoom参加が出来たので、スケジュール調整が出来て助かりました。
- ・動画の事例が、大変共感できわかりやすかったです。
- ・会場もありのハイブリッドであれば、近隣地域の方が臨場できて会場とのやり取りが一層盛り上がるのではないかと思います。
- ・本日は貴重なお話、機会をありがとうございました。親子の会話はあっても、伝えたいことは半分も伝えられなかったり、感情的になってしまったりの日々ですが、時間を作って会話をする、相手の思いを知るのも大切だと感じ、実践してみたいと思いました。

※原文ママ

< Q 7 >社会連携教育センターでは、今後もいろいろな企画をしていく予定です。どのような企画があるとよいか、ご自由にご記入ください。

- ・子どもの喜ぶ健康で美味しいおやつレシピをご紹介しますと嬉しいです。
- ・発達障害や、それが疑われる学生の対応について（できれば最近の）情報を知りたいです。
- ・これまでも、興味深いテーマの企画があったのですが、日程の都合がつかず参加できませんでした。事後の録画配信もあるとありがたいです。
- ・子育てについて。女性の働き方について（家庭と仕事の幸せな両立。）
- ・まだ子どもが小さいので週末のオンライン開催は有難いです。
- ・子供が私のような社会人になったことを想定して役立つ教育に触れる講義がいいかなと思いました。
- ・成長期の子どもの生活がより豊かになるような企画に参加したいです。
- ・各種面接技法を下敷きにしたビデオなどを盛り込んで、家庭内（学校・職場編もあり）の円滑なコミュニケーションに役に立つ対話・会話技法シリーズなどがあれば聴講したいです。

※原文ママ

< Q 8 >イベントに参加しやすい曜日・時間帯について、ご自由にご記入ください。

（例：土曜13時～、日曜午前中 等）（複数回答可）

その他	1
日曜午後	4
日曜午前	10
土曜午後	6
土曜午前	19
平日夜間	8
平日午後	1

その他：長期休暇中

<Q9>よろしければ、あなたのご所属などについて当てはまるものを選択してください。

現在子育て中の方	3
教育関係の仕事に携わっている方（幼稚園・保育園）	0
教育関係の仕事に携わっている方（小学校・その他）	0
自治体のご関係者	0
近隣にお住まいの方	1
本学学生・大学院生	1
本学教職員	7
日本女子大学附属豊明幼稚園・小学校・日本女子大学附属中学校の保護者	11
本学卒業生	5
その他	1

その他：会社員

<Q10>本日の講演内容に質問がありましたらこちらへお寄せください。

- ・質問ではないのですが失礼します。反抗期の子（15歳）が家族と口もきかないのですが、今日のお話を参考に少しずつ関係を改善していけたらと思いました。「お盆にのせる」というワードが心に残りました。ありがとうございました。
- ・息子がゲームに夢中になっていた頃、声をかけても無視をするので、会話の時間を持とうと提案したことがあります。が、時間を決めていざ会話しようとする、嫌々、ふてくされていて全く進みませんでした。（「べつに」「ふつう」というだけで、自分の思いや考えていることを話してくれず、私の気持ちを伝えただけで終わってしまった）。現時点では、夫も「めんどくさい」といって、まじめに会話をしようとはしてくれません。そんな相手に対して対話実践を上手く進める（同じ土俵に上がってもらう）ヒケツがありましたら教えていただけますでしょうか。導入部のコツもありましたらお願いします。
- ・ありがとうございました。大変興味深い内容でした。もう少しお時間があれば実践例を多く拝見したかったです。

※原文ママ

イベント名：<第26回 子育てサイエンス・カフェ>

第2回文京避難所大学 みんなの避難所教室

『妊産婦・乳児救護所』の現場を見て、いざというときの準備を始めよう

日 時：2026年3月14日（土）10:00～12:00

場 所：新泉山館大会議室（対面開催）

参加人数：18組（大人18名・赤ちゃん4名）

アンケート：16件（回収率：89%）

<Q1>ご所属をお聞かせください

赤ちゃんとそのパパ・ママ	6
ブレパパ・ママ	2
防災士資格をお持ちの方	3
その他	5

その他：文京区民生委員、教育関係者、東京都生活協同組合連合会、孫6人や元・保育ママの経験、大学教員

<Q2>あなたの性別を教えてください

男性	3
女性	13

<Q3>居住地を教えてください

文京区	7
それ以外	9

文京区以外：豊島区、中野区、板橋区、墨田区、八王子市、武蔵野市、横浜市

<Q4>[赤ちゃんの親御さんのみ] 赤ちゃんの月齢を教えてください

妊娠中	2
0～12ヶ月	5
1歳	0
2歳	1
その他	1

その他：10歳

<Q5>今回のイベントにどのようなご興味があり参加されましたか？(複数回答可)

日本女子大学の防災への取り組み	11
文京区の防災への取り組み	11
妊産婦・乳児救護所を知るため（設備、備蓄品、雰囲気の把握等）	14
災害時に関する情報収集のため	8
大学主催のイベントだから	3
地域との交流	1
その他	1

その他：58年近くクリスチャン？、今、広い教会の、割り当て責任が、施設管理、になり、赤ちゃんや、子供達多く、広いP場も、地域の役立つかも！（原文ママ）

<Q6-1>今回の説明や見学などを通じて備蓄物資の内容を理解することができましたか

理解できた	12
ある程度理解できた	4
あまり理解できなかった	0
理解できなかった	0

<Q6-2>その理由をお聞かせください

- ・わが家で用意している備蓄品に足りないものなどがわかりとても良かったです。
- ・実際にリストと倉庫を見られたので
- ・備蓄数や避難所開設の手順など説明していただき、イメージができた。
- ・気づき多く、感謝いっぱいです、文京区在勤メリット、常々、ビル管理、マンション等、エレベーター不可の時、外階段手入れします、高齢者、ハンディ者、カートのチェック

※原文ママ

<Q7>本イベント参加前に妊産婦・乳児救護所の存在を知っていましたか

内容まで知っていた	2
名前は聞いたことがあった	7
知らなかった	7

- ・図書館でチラシを見た
- ・2024年9月28日跡見学園女子大学でのシンポジウムに参加したため。
- ・一般の避難所の運営についても課題が多く、高齢者、外国人避難の対策を優先しており、妊産婦や乳幼児までまわっていない状況のため、内容までは詳しく知りませんでした。
- ・恥ずかしながら、実態を知りませんでした。児童学科の教員と学生にも広めたいと思います。

※原文ママ

<Q8>災害時の避難所において妊産婦や乳児のご家族にはどのような配慮が必要だと思いますか
(最大3つまで)

静かに休めるスペース	7
授乳・おむつ替えスペース	11
乳児向け備蓄物資	9
周囲（スタッフやボランティア）などによる声かけ	8
その他	5

<Q9>災害時に主に想定している避難先はどこですか

日本女子大学妊産婦・乳児救護所	1
跡見学園女子大学妊産婦・乳児救護所	1
貞静学園短期大学妊産婦・乳児救護所	0
東洋学園大学1号館妊産婦・乳児救護所	0
指定避難所（小学校など）	4
在宅避難	9
親類・知人宅	0
まだ決めていない	1
その他	0

<Q10>妊産婦・乳児救護所について気になっていること、不安に思っていることがあればお聞かせください

- ・〇物資の不足 各自治体の要配慮者（妊産婦、老人など）の数を他現課と共有し、必要な物資の数を用意する＋在宅避難に必要な物資で対策する必要があると思う"
- ・どこかで区切りをつけないと、1歳過ぎてしまうとこれないというのは残念…
- ・生後6ヶ月すぎるとコットは使えないので、どうやってあのスペースで寝るかは考えないといけない。避難所まで、赤ちゃん、赤ちゃんの避難バッグ、自分の避難バッグ3つを1人で持ちきれないので、どう逃げるか悩ましい。産後すぐは体もガタガタなので余計に… 赤ちゃん用避難所に男性を入れるかは、スペースを2分してよいと思う。母乳を与える人は男性に抵抗ある一方、赤ちゃんが動けるようになると、慣れているパパにも見てもらう方が助かる。安全が確認できたら、赤ちゃんがハイハイや遊べるエリアが必要かも。おもちゃも豊富な区の子育て支援センターと協働してほしい。あのスペースに1日6ヶ月以上の赤ちゃんがいられるとは思えない…在宅避難するにしても、支援センターをたまに使えると親子とも気分転換できます。赤ちゃんにとっては震災も関係ないので。
- ・配置について考えたい

- ・このような救護所があることはありがたいことで心より感謝申し上げます。欲を言えば、救護所に辿り着けない方、また、救護所を出た後の方や在宅避難をしている方の「心のケア」のアウトリーチについて不安があります。
- ・理想的な運営方法です。男性（配偶者）も近くに滞在できる、例えば図書館前の青蘭館を活用するなどでできれば安心安全かなとも思うところです。検察として犯罪対策を仕事としている身からすると警備体制など女性ばかりの施設となると心配です。
- ・平田先生にはお話しましたが、新泉山館の地下は、湿気が尋常ではありません。備蓄しているものの安全性を担保するためにも、定期的な点検や除湿対策をした方がよろしいかと思います。
- ・冷暖房や非常用電源など他の避難所より優遇されて準備してあるのか？地域の他の避難所との連携や災害時の直接の連絡手段はあるのか？一般の人に、救護所のことはどのくらい周知されているか。外国語や手話対応などコミュニケーション弱者の対応はどうなっているか？入口の掲示物の文字が多い。子ども抱えて非常時に読める量を考えた掲示がよい。大災害時、建物が危険なとき以外で、開所されない理由があるか？男性は入れないということだったが、区の参集職員は女性ばかりなのか？
- ・父親が利用できない事。災害時に家族が離れる事で不安になる。移動も容易ではないので、同一建物がむずかしくても、同一敷地内か隣接する避難所が必要だと思います。
- ・水に関して、雨水タンクの必要性

※原文ママ

<Q11- 1> 今回の講座にどの程度満足いただけましたか

大変満足	12
満足	4
普通	0
少し不満	0
不満	0

<Q11- 2> その理由をお聞かせください

- ・乳幼児避難所がよくわかった
- ・若い方がこのようなテーマに取り組んでいらっしゃるのが素晴らしいと思いました。
- ・実際の運営や備蓄品を見聞きでき、地域の防災対策に反映させたいと考えています。東京都防災士会の会長（兼中野区防災士会会長）にも報告をしたいと思っています。
- ・本学の教職員や学生がこのような大事な取り組みをしていることを誇りに思いました。また、自分の無知に気づき、児童学科に働きかけようと動機付けになりました。
- ・住んでいる地区にある避難場所以外にも、日本女子大にも避難できる場所があることで、安心感が増えました。
- ・訓練取り組む様子が、災害時に生きると思っているの、学生さんなども主体的に関わっていてよかったので。
- ・赤ちゃんを連れた親子さん、妊婦さんから直接お話を聞くことができ参考になりました。
- ・東京の為、危険防止に、もっと知識必要為保育士

※原文ママ

<Q12> 今回のイベントについてのご意見・ご感想を、ご自由にお書きください

- ・上の子がいることや動き回る月齢など家族の状況から考えると、自宅で避難できるようにしておくのが1番重要だと思いながらも、災害時に子どもを受け入れてくれる・情報共有ができる場所があるということはとても心強いと思いました。他の避難所でも赤ちゃんがいる方はこちらの避難所を案内されるということでしたが、いろいろな状況で必ずしも移動できる方ばかりではないと思うので、物資のやりとりなどができたらいいのではないかと思います。

- ・実際に運用するには課題山積みと思いますが、これからも引き続き研究成果を地域住民に還元して頂けることを期待しています。本日はありがとうございました。
- ・区と連携して親子連れ向けの防災イベントを開催して乳幼児の保護者からお話を聞く回数を増やしてみたいか
がでしょうか。平和教育、金融教育と同様に防災教育は日本人に必要な教育ですので、一番効果のあるブースや
人気のあるブース、例えば水消火器や起震車に加えて今回の避難所の動画上映と物品展示で意見を聞いたり、可
能なら実際の避難所環境を作って意見を求めてみてはどうでしょう。健常者や若年層では気が付かないこともあ
ると思います。また、研究発表ブースも設けていただき研究員皆さんの成果も知りたいです。見学で気になった
のは、電気がないと空調も動かない、窓は開く?出入口だけなら換気を工夫しないと。照明はどこに置く、ラン
タンで足りる?分娩室は真っ暗?エネポのようなガスボンベ発電機だとカセットコンロもガスボンベで使えます
が、どこに発電機を置くか、カセットコンロは室内だと火災防止、換気の面で使えないなど。お湯は食事だけで
なく煮沸など衛生面でも必要ですので区と調整されてはいかがでしょう。また、非常発電機の有無や発電時間
なども把握が必要ですし、さすまたや盾など守衛室にあると思いますがいざという時のために訓練が必要です。
あと、外国人向けの表記も必要かと。多文化医療サービス研究会さんがママと赤ちゃんの言語サポートシリーズ
を公表していますので参考にしてみたいかどうか。細かいところでは、余震等もあるので笛を配って、何
かあれば吹いてもらうとか、手鏡を用意しておくとか、また、インフルエンザや風疹など感染症が発生も怖い
ので感染症発生時の対応策として嘔吐や下痢の防護具があるといいかも知れません。日本新生児生育医学会の被災
地の避難所等で生活する赤ちゃんのためのQ Aなども見ておくと思えます。災害時は原則論やマ
ニュアルでの対応は難しく、在宅避難はするけどミルクだけ欲しいという方や、避難所内でルールに従わない、
対応に苦慮する方の対応、対応困難な場合には退所などイレギュラーな場合の避難所運営ルールをある程度準備
しておき、速やかに示せると良さそうかなと思います。最後に、先日区の防災士研修会で妊産婦の座る場所、椅
子で激論になったのですが、床は辛い、教室の椅子やパイプ椅子だと不安定で固い、校長室の椅子やソファが
いいけど学校長の許可がいる。トイレが近いほうがいいから教室を開放したいがそれも校長の許可がいる。い
かなる場合も女性優遇は認めない高齢男性も少なくはないです。災害時でも許可が必要だったり女性に対して厳
しいのが今の日本かなと思います。避難所運営の練習を通じて知識と経験を深めていただき、各分野での活躍を期
待しています。配布いただいたもしものときのパンフレットは素晴らしいです。意識啓発、正しい知識を知るこ
とができました。
- ・最初に後方の席に座ってしまいましたので、グループワークに入りませんでした。申し訳ありませんでした。
- ・今回の参加者に加えて、乳児育児の経験があるご家族にもご参加いただけると、より幅広い視点で意見交換がで
きたかもしれないと感じました。参加者の幅を広げるのもよいのではないかと思います（近隣小学校に宣伝を
するなど）
- ・「救護所にくるならコレ持ってきて」や、「来たら手伝ってください」など、語りかけるワードをたくさん聞けた。
とても良い啓発の仕方だと思います。動画やパンフも素敵でした。参加しなきゃ分からないことを知ることが
できました。ありがとうございました。
- ・日本女子大学の専門の先生や学生の未来志向の取り組みを学ぶ機会になりました。東京都と各自治体の合同防災
訓練に何度か参加しましたが、妊婦、乳児に焦点を当てた訓練は初めてでした。ありがとうございました。
- ・保育士さんいないが、折り紙や、何か安全おもちゃフワフワとか、

※原文ママ

<Q13>大学でこのようなイベントがあればまた参加してみたいですか

はい	16
いいえ	0

SDGs特設サイト

2025年度 SDGs特設サイトについて

2021年度に立ち上げたSDGs特設サイトにて、本学におけるSDGsの取り組みに関する情報を発信してきた。2025年度は事務局の取り組みを含む10コンテンツを新たに公開した。次年度以降も、撮影・取材を実施し、コンテンツのさらなる充実をはかる。

日本女子大学×SDGs特設サイト：<https://www3.jwu.ac.jp/sdgs/index.html>



【2025年度スケジュール】

2025年5月～ 学内募集

2025年9月～ 取材・撮影開始

2026年3月 10コンテンツを公開

【ホームページ公開】

障害は人ではなく、社会にある。	人間社会学部社会福祉学科 教授 田中 恵美子
社会から学ぶだけではなく、学ぶことで社会を変えていきましょう。	人間社会学部教育学科 准教授 荻野 亮吾
現実では言えない独裁者への批判も、物語なら言うことができる。	文学部英文学科 准教授 奥畑 豊
私たちは、全世界20億人ものイスラム教徒たちとともに生きている。	文学部史学科 准教授 水上 遼
見えないものを信じることが、世界を平和にする。	人間社会学部心理学科 准教授 石井 辰典
すべてのことは繋がっている。	人間社会学部現代社会学科 教授 尾中 文哉
わたしたちの希望の光は、まさに光の研究の先にある。	理学部数物情報科学科 教授 小川 賀代
「食と栄養」こそ、医療系科学者が挑む最後の難関かもしれません。	食科学部栄養学科 教授 中島 啓
おいしさと健康の両立は、まさに噛みごたえのある研究テーマです。	食科学部食科学科 教授 藤井 恵子
質の高い教育とはなにか？それも、図書館で見つかるかもしれませんよ。	図書館事務局図書館課

2025 年度 日本女子大学 社会連携教育センター活動報告書

発行 2026 年 7 月 31 日
日本女子大学 社会連携教育センター
(事務局：学務部社会連携室)
〒112-8681 東京都文京区目白台 2-8-1
TEL：03-5981-3748

jsc@atlas.jwu.ac.jp

● 社会連携教育センター公式 HP



● Instagram



● X

